

授業科目名 (副題)	健康づくり・生活支援入門 (これからの健康とスポーツ科学)	
担当者	奥野 直	
実務経験のある教員による授業		
実務経験内容		
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他		
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「健康でありたい」と誰もが願います。「最近、太ってきたなあ」とか、「運動していないなあ」と思っている、運動や栄養管理を実行する人は少ない。もともと健康管理に関心の無い人もいますが、健康のためにどんなことをすればいいの、どんなやり方があるのかわからない人がとても多い。健康をどのようなレベルで考えようか、何もせずにじっと待っていたのでは決して健康な状態を維持・増進することはできない。本講座は、「これからの健康とスポーツ科学」と題して、運動生理学の基礎知識について習得し、一人ひとりがそれぞれのレベルでできる健康づくりのための運動やトップアスリートのトレーニングについて理解できるようになることを目的とする。人それぞれ健康に対する意識には違いがあるが、出来る範囲で運動を実践し、習慣化させることで「前より元気になった」、「QOLが上がった」などが実感できるようにする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①スポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断(思考力)ができる。 ②健康の維持・増進の分野において活躍が期待でき、さらに、国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 ③社会人として、自ら考えて行動する能力(自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力)を身に付けている。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノートの整理をしてください。また、次回の授業に関連する内容についての質問等を考えておいてください。 各回の授業についての予習・復習を4 時間程度行ってください。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業中の課題(30%)、レポート(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業中の課題、レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>4年制大学との合同授業なので積極的に参加してください。レポートの書き方等、事前に学修するよう心がけてください。また、わからないことがあれば、質問してください。</p>		

授業科目名 (副題)	健康づくり・生活支援入門 (これからの健康とスポーツ科学)
担当者	奥野 直
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を推進するための生活スタイルとは ①日本人は健康といえるのか ②環境と健康 2. 身体機能はどこまで進化するのか トップアスリートのからだ1 世界最速の走り 3. 運動・トレーニングと身体の応答 ①骨格と筋肉(筋線維タイプと筋収縮) ②呼吸と循環 4. 身体機能はどこまで進化するのか トップアスリートのからだ2 筋力かバランス能力か 5. 身体機能はどこまで進化するのか トップアスリートのからだ3 シンクロナイズスイミング 6. 肥満のメカニズムと改善方法 ①肥満の起こる原因 ②肥満を改善する適切な方法 7. スポーツ心理学 スポーツメンタルトレーニング 8. スポーツにおけるモチベーションとスランプからの脱出 9. 信頼関係でつかみとる日本一のチームづくりとは 10. メンタルヘルス 運動することの心理学的恩恵 11. 身体機能はどこまで進化するのか トップアスリートのからだ4 世界一のハイジャンプ 12. スポーツ栄養学の基本 ①運動選手の食事 ②暑熱環境下の水分補給 13. 身体機能はどこまで進化するのか トップアスリートのからだ5 体操内村航平 14. 持久力を高める科学的トレーニング 15. 身体機能はどこまで進化するのか トップアスリートのからだ6 マラソンの世界最強 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法:授業中の課題(30%)、レポート(70%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 教科書なし、資料としてプリント配布。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 参考書なし</p>	

授業科目名 (副題)	衣生活の知識		
担当者	古田 貴美子、本保 弘子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>快適な生活を過ごすためには、ファッションやインテリアに関する知識を身に付けることが有効であり、素材の知識が役に立ちます。衣服について、形、サイズ、着方や洗濯・保管に関する基本的な内容全般を講義します。</p> <p>また、布を使って簡単に小物作りができるように基本の技術の習得を目指します。手縫いとミシン縫いにより巾着袋、手さげ袋などを製作します。</p> <p>衣生活だけでなく、住生活に関する内容を含みます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①衣服素材やインテリア素材に関する知識を身に付け、生活するうえで適切な取り扱いができる。</p> <p>②布を使って身の回りの小物を作ることができる。</p> <p>③衣生活や住生活をよりよくするために、工夫することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>服飾やインテリアなどに関して、店頭や新聞雑誌、WEB上の様々な造形から、参考になる(好きな)資料を集めてください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(30%)、作品(40%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートと作品の評価を返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>製作する小物の材料費は自己負担です。</p>			

授業科目名 (副題)	衣生活の知識
担当者	古田 貴美子、本保 弘子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活とファッション(古田) 2. 衣服の素材と管理(古田) 3. 衣類の収納家具を選択(本保) 4. 衣類の収納家具を平面図に配置(本保) 5. ウインドトリートメント(本保) 6. 子ども部屋のインテリア(本保) <p><小物の製作></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 作成計画 形・大きさ決定(古田) 8. 布地の扱い方、道具の使用方法(古田) 9. 布地の裁断、しるしつけ(古田) 10. 手縫いの技術…お手玉製作(古田) 11. ミシンとアイロンの使用方法…コースター製作(古田) 12. ミシン縫いの技術…巾着袋製作(古田) 13. ミシン縫いの技術…裏つき巾着袋製作(古田) 14. ミシン縫いの技術…手さげ袋製作(古田) 15. ミシン縫いの技術…手さげ袋製作(古田) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: レポート、作品</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 作品、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『シリーズ(生活科学)衣生活学』 著者名: 佐々井啓編著 出版社: 朝倉書店 (4-254-60597-8)</p>	

授業科目名 (副題)	イタリア語 I		
担当者	吉富 文		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>いつかイタリアに行ってみたい。そう思っている人は多いのではないのでしょうか。歴史、文学、建築、アート、音楽、映画、ファッション、料理……。どの側面から見てもイタリアは興味深い国です。そんな国で話されているイタリア語は、音の響きが美しい、日本人にとって発音しやすい言語とされています。</p> <p>いつか、近い将来に旅行するときのためにイタリア語を勉強してみませんか？</p> <p>この授業ではイタリア語の初歩を学習します。基本的な文法事項を学習し、得た文法知識を応用させて会話へと発展させていきます。</p> <p>英語が苦手な人も大丈夫。みんなゼロからのスタートです。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①発音のルールを理解し、つづりを見て発音できるようになる。 ②基本的な文法事項を理解し、会話で応用させることができる。 ③自分の身の回りについてイタリア語で表現できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容をふり返し、本当に理解できているか確認してください。 ・例文や練習問題に出てきた単語や表現の意味をメモし、暗記してください。 ・課題の練習問題は、答えを書くだけではなく、イタリア語の問題文を日本語に訳すこともしてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(60%)、授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>外国語というのは間違いながら身に付けるものです。間違ふことを恐れず、恥ずかしがらず、積極的にイタリア語を口にしてください。</p> <p>分からないところがあればその都度、質問して解決するように努めてください。</p>			

授業科目名 (副題)	イタリア語 I
担当者	吉富 文
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリアについて 2. イタリア語の挨拶とアルファベート 3. カフェで注文する(名詞と冠詞) 4. 居場所や出身地を言う(文の語順、動詞essere) 1 5. 居場所や出身地を言う(文の語順、動詞essere) 2 6. 食べ物の味を言う(形容詞1) 7. 身に付けている物の色を説明する(形容詞2) 8. 自分の持ち物について言う(動詞avere) 9. 年齢を言う(動詞avere、0～20までの数) 10. 何を買うか言う・住んでいる所、働いている所を言う(-are動詞規則活用) 1 11. 何を買うか言う・住んでいる所、働いている所を言う(-are動詞規則活用) 2 12. 行き先を言う・今夜の予定について話す・職業を言う(-are動詞不規則活用) 1 13. 行き先を言う・今夜の予定について話す・職業を言う(-are動詞不規則活用) 2 14. 名詞、冠詞、形容詞の語尾変化、動詞の活用についてのまとめ 15. 名詞、冠詞、形容詞の語尾変化、動詞の活用について理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を超え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 試験・受講態度</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 試験・受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Italiano Italianoーイタリア語はじめの一步ー』 著者名: マッテオ・カスターニャ、吉富 文著 出版社: 朝日出版社 (978-4-255-55314-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	イタリア語Ⅱ		
担当者	吉富 文		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 前期の学習でイタリア語の音や文法に慣れてきたことと思います。 後期は前期に引き続き、文法事項を学習しながら会話によるコミュニケーションへとつなげていきます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発音のルールを理解し、つづりを見て発音できるようになる。 ②基本的な文法事項を理解し、会話で応用させることができる。 ③自分の身の回りについてイタリア語で表現できるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容をふり返り、本当に理解できているか確認してください。 ・例文や練習問題に出てきた単語や表現の意味をメモし、暗記してください。 ・課題の練習問題は、答えを書くだけではなく、イタリア語の問題文を日本語に訳すこともしてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(60%)、授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>外国語というのは間違いながら身に付けるものです。間違ふことを恐れず、恥ずかしがらず、積極的にイタリア語を口にしてください。 また、分からないところがあればその都度、質問して解決するように努めてください。</p>			

授業科目名 (副題)	イタリア語Ⅱ
担当者	吉富 文
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期のおさらい 2. 食べたい物、飲みたい物と言う(-ere動詞規則活用1) 3. 余暇について話す(-ere動詞規則活用2) 4. 何を飲むか言う(-ere動詞不規則活用1) 5. 情報を尋ねる(-ere動詞不規則活用2) 6. 好みを言う(-ire動詞規則活用1) 7. バカンスの予定を話す(-ire動詞規則活用2) 8. いつ、何をするか言う(-ire動詞不規則活用1) 9. 今夜の予定を話す(-ire動詞不規則活用2) 10. カフェで注文する(名詞・定冠詞の複数形) 11. 誰と出かけるか言う(形容詞の複数形) 12. 時刻を言う1 13. 時刻を言う2、20～100までの数 14. 名詞・冠詞・形容詞の複数形、-ere動詞・-ire動詞の活用についてのまとめ 15. 名詞・冠詞・形容詞の複数形、-ere動詞・-ire動詞の活用について理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を超え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 試験・受講態度</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 試験・受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Italiano Italianoーイタリア語はじめの一步ー』 著者名: マッテオ・カスターニャ、吉富 文著 出版社: 朝日出版社 (978-4-255-55314-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	異文化コミュニケーション		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「文化」「異文化」「コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」について学びます。異文化コミュニケーションの必要性について具体的に理解するために、「偏見や排除の危険性」「見える文化と見えない文化(価値観と文化的特徴)」「違いについての考え方」「非言語コミュニケーション」「コンフリクト・マネージメント」「異文化適応・適性」について理解を深めます。異文化間コミュニケーションで起きる摩擦や問題について、文化背景や歴史、社会の価値観や状況の観点から問題を分析し、友好的なコミュニケーションの方法について学びます。「異文化コミュニケーションにおける留意点」をテーマにレポートを提出してもらいます。異文化コミュニケーションの理解を促すため、“Passage to India”および“Guess Whose Coming to Dinner”について考え、作品中の異文化コミュニケーションについてディスカッションをします。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①異文化コミュニケーションの知識を深め、友好的なコミュニケーションができるようになる。 ②異なる価値観や多様性を尊重することができるようになる。 ③異文化適応性を養うことができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスには毎回の授業で進むテキストの章が記載されています。授業の準備として、授業で進む章を読んで授業に出席してください。また授業で課題を出しますので、課題の提出及び発表ができるようにしておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>課題(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は回収後、解答の解説を行い返却します。 レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>積極的に授業に取り組み、理解できないところは質問してください。</p>			

授業科目名 (副題)	異文化コミュニケーション
担当者	谷山 澤子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 なぜ今、異文化コミュニケーションか 2. 第2章 コミュニケーションとは何か 文化・異文化・コミュニケーション・異文化コミュニケーションの定義 3. 第2章 コミュニケーションとは何か 4. 第3章 ことばによるコミュニケーション 5. Passage to Indiaについて学ぶ・ディスカッション 6. Passage to Indiaについて考える・ディスカッション 7. 第4章 ことばのないメッセージ・非言語コミュニケーション 8. 第4章 言葉のないメッセージ・非言語コミュニケーション 9. 第5章 見えない文化・価値観と文化的特徴 10. 第5章 見えない文化・価値観と文化的特徴 11. 第6章 異なる文化のとらえ方・接し方・異文化の理解 12. 第7章 異文化との出会い:カルチャーショックと異文化適応 Guess Who's Coming to Dinner!について学ぶ 13. Guess Who's Coming to Dinner!について考える・ディスカッション 14. 異文化コミュニケーション・スキルとトレーニング 15. 異文化コミュニケーションをするために必要なことについて、課題・ディスカッション <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法:課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『異文化トレーニング・ボーダレス社会を生きる』 著者名:八代京子他3名 出版社:三修社 (978-4384012439)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	インターンシップ		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係での実務経験を活かして、企業との関わりについて指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>本格的な就職活動を始める前に、企業で一定期間の就業体験を行い、企業理解を深めます。仕事を通じて自分自身の適性や適職を発見し、今後のライフプランやキャリアプランを形成する上での基礎学習とします。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 企業等での実習・研修体験を通して、社会性や価値観を養い、自分なりの「働くこと」に対する考えを持つことができるようになる。</p> <p>② 授業で得た知識を社会で生かせることができる。</p> <p>③ 実体験によって、主体的な職業選択能力を高めることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加するインターンシップ・プログラムの趣旨を理解し、どのような人が関わっているかに興味を持つようにしてください。 ・参加する企業の下調べを充分に行ってください。 ・日頃から地域の行事や体験学習などに関心を持つようにしてください。 <p>[成績評価方法]</p> <p>就業先からの実施報告書及び評価票(50%)と、本人が作成する体験レポートとプレゼンテーション(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は後日添削をして返却します。 プレゼンテーション発表は、終了後に、講評します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定となる時間数は、企業での実習・事前学習・事後学習・レポート提出などを含めて45時間の学修が必要です。 ・希望学生は初回のガイダンスに必ず出席してください。その後は、各自、参加申告書に基づき、個々に活動を行います。 			

授業科目名 (副題)	インターンシップ
担当者	福井 愛美
<p>[授業計画]</p> <p>実施団体や企業により異なりますが、3～5日間の場合、概ね次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ制度説明会及びガイダンス 2. インターンシップ企業説明会 3. 企業研究とエントリーシート作成—応募 4. 第1回 事前学習会(協会主催の場合は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・企業研究と心得、実習計画の作成 ・協会主催の場合(中小企業経営者による講演、先輩学生によるインターンシップ体験談発表、安全教育などを実施) 5. 第2回 事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> マナー研修—実習先での心得や注意事項、挨拶状・礼状の書き方、電話のかけ方など 6. インターンシップ実施 <ul style="list-style-type: none"> <例>5日間以上実施の場合(8時間×5日=40時間以上) 7. 報告書作成(就業体験の日数分) 8. 事後学習会1、(協会主催の研修会は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・発表用パワーポイント作成について 9. 事後学習会2、 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントによる就業体験報告とレポート作成 ・振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 就業先からの報告書と評価表で評価します。</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 体験報告レポートとプレゼンテーションで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特に定めません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『インターンシップ』 著者名: 上田晶美監修 出版社: 日経VIDEO(DVD)</p>	

授業科目名 (副題)	インターンシップ		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>本格的な就職活動が始める前に、企業で一定期間の就業体験を行い、企業理解を深めます。仕事を通じて自分自身の適性や適職を発見し、今後のライフプランやキャリアプランを形成する上での基礎学習とします。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①企業等での実習・研修体験を通して、社会性や価値観を養い、自分なりの「働くこと」に対する考えを持つことができるようになる。 ②授業で得た知識を社会で生かせることができる。 ③実体験によって、主体的な職業選択能力を高めることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加するインターンシップ・プログラムの趣旨を理解し、どのような人が関わっているかに興味を持つようにしてください。 ・参加する企業の下調べを充分に行ってください。 ・日頃から地域の行事や体験学習などに関心を持つようにしてください。 <p>[成績評価方法]</p> <p>就業先からの実施報告書及び評価票(50%)と、終業後に本人が作成するレポート及びプレゼンテーション(50%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は後日添削をして返却します。 プレゼンテーション発表は、終了後に講評します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定となる時間数は、企業での実習・事前学習・事後学習・レポート提出などを含めて45時間の学修が必要です。 ・希望学生は初回のガイダンスに必ず出席してください。その後は、各自、参加申告書に基づき、個々に活動を行います。 			

授業科目名 (副題)	インターンシップ
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <p>実施団体や企業により異なりますが、3～5日間の場合、概ね次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ制度説明会及びガイダンス(遠隔授業) 2. インターンシップ企業説明会(遠隔授業) 3. 企業研究とエントリーシート作成—応募(遠隔授業) 4. 第1回 事前学習会(協会主催の場合は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・企業研究と心得、実習計画の作成 ・協会主催の場合(中小企業経営者による講演、先輩学生によるインターンシップ体験談発表、安全 教育などを実施) 5. 第2回 事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> マナー研修—実習先での心得や注意事項、挨拶状・礼状の書き方、電話のかけ方など 6. インターンシップ実施 <ul style="list-style-type: none"> <例>3日間以上実施の場合(8時間×3日=24時間以上) 7. 報告書作成(就業体験の日数分) 8. 事後学習会1、(協会主催の研修会は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・発表用パワーポイント作成について 9. 事後学習会2、 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントによる就業体験報告とレポート作成 ・振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 就業先からの実施報告書及び評価票で評価します。</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 就業後のレポートとプレゼンテーション発表で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特に定めません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『インターンシップ』 著者名: 上田晶美監修 出版社: 日経VIDEO(DVD)</p>	

授業科目名 (副題)	インターンシップ		
担当者	大西 眞弓		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 本格的な就職活動が始める前に、企業で一定期間の就業体験を行い、企業理解を深めます。仕事を通じて自分自身の適性や適職を発見し、今後のライフプランやキャリアプランを形成する上での基礎学習とします。</p> <p>[到達目標] ①企業等での実習・研修体験を通して、社会性や価値観を養い、自分なりの「働くこと」に対する考えを持つことができるようになる。 ②授業で得た知識を社会で生かせることができる。 ③実体験によって、主体的な職業選択能力を高めることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・参加するインターンシップ・プログラムの趣旨を理解し、どのような人が関わっているかに興味を持つようにしてください。 ・参加する企業の下調べを十分に行ってください。 ・日頃から地域の行事や体験学習などに関心を持つようにしてください。</p> <p>[成績評価方法] 就業先からの実施報告書及び評価票(50%)と、本人が作成するレポート・プレゼンテーション(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物は後日添削して返却します。 プレゼンテーション発表は、終了後に、講評します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・単位認定となる時間数は、企業での実習・事前学習・事後学習・レポート提出などを含めて45時間の学修が必要です。 ・希望学生は初回のガイダンスに必ず出席してください。その後は、各自、参加申告書に基づき、個々に活動を行います。</p>			

授業科目名 (副題)	インターンシップ
担当者	大西 眞弓
<p>[授業計画]</p> <p>実施団体や企業により異なりますが、3～5日間の場合、概ね次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ制度説明会及びガイダンス(遠隔授業) 2. インターンシップ企業説明会(遠隔授業) 3. 企業研究とエントリーシート作成—応募(遠隔授業) 4. 第1回 事前学習会(協会主催の場合は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・企業研究と心得、実習計画の作成 ・協会主催の場合(中小企業経営者による講演、先輩学生によるインターンシップ体験談発表、安全 教育などを実施) 5. 第2回 事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> マナー研修—実習先での心得や注意事項、挨拶状・礼状の書き方、電話のかけ方など 6. インターンシップ実施 <ul style="list-style-type: none"> <例>3日間以上実施の場合(8時間×3日=24時間以上) 7. 報告書作成(就業体験の日数分) 8. 事後学習会1、(協会主催の研修会は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・発表用パワーポイント作成について 9. 事後学習会2、 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントによる就業体験報告とレポート作成 ・振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 就業先からの実施報告書及び評価票(50%)で評価します。</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 本人が作成するレポート・プレゼンテーション(50%) で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特に定めません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『インターンシップ』 著者名: 上田晶美監修 出版社: 日経VIDEO(DVD)</p>	

授業科目名 (副題)	英会話		
担当者	J. ファハード		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>This course is designed to help students acquire the fundamental skills necessary for effective oral communication. The course will provide students with opportunities to develop and improve their speaking and listening skills.</p> <p>[到達目標]</p> <p>①Students will improve in conversation skills which can be used in a number of different situations.</p> <p>②Students will learn about natural conversational phrases and understand when to use them.</p> <p>③Students will become more fluent speakers and better listeners.</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>Study your textbook before class. Be ready to speak English. Finish your homework before class. 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>Participation (30%) Homework / Classwork (15%) Presentation (15%) Midterm Speaking Test (20%) Final Speaking Test (20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>Homework, tests, speeches</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>Students are expected to speak in English as much as possible.</p>			

授業科目名 (副題)	英会話
担当者	J. ファハード
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Unit 1: Please Call me Beth 2. Unit 1 continued 3. Unit 2: How do you spend your day? 4. Unit 2 continued 5. Unit 3: How much is it? 6. Unit 3 continued 7. Speaking Midterm / Review 8. Unit 4: I really like hip-hop 9. Unit 4 continued 10. Unit 5: I come from a big family 11. Unit 5 continued 12. Unit 6: How often do you exercise? 13. Unit 6 continued 14. Presentations / Final test review 15. Speaking Final / Review <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: Feedback will be given for daily speaking and listening activities, class participation, and two speaking exams. Students are also evaluated on their ability to use English as much as possible during class hours.</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>Interchange 5th Edition, Student's Book 1 著者名: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press. (9781316622681)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>Notebook, pencils, and English dictionary.</p>	

授業科目名 (副題)	英会話		
担当者	J. ファハード		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>This course is designed to help students acquire the fundamental skills necessary for effective oral communication. The course will provide students with opportunities to develop and improve their speaking and listening skills.</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Students will improve in conversation skills which can be used in a number of different situations. 2.Students will learn about natural conversational phrases and understand when to use them. 3. Students will become more fluent speakers and better listeners. <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>Study your textbook before class. Be ready to speak English. Finish your homework before class. 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>Participation (30%) Homework / Classwork (15%) Presentation (15%) Midterm Speaking Test (20%) Final Speaking Test (20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>Homework, tests, speeches</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>Students are expected to speak in English as much as possible.</p>			

授業科目名 (副題)	英会話
担当者	J. ファハード
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Unit 1: Please Call me Beth 2. Unit 1 continued 3. Unit 2: How do you spend your day? 4. Unit 2 continued 5. Unit 3: How much is it? 6. Unit 3 continued 7. Speaking Midterm / Review 8. Unit 4: I really like hip-hop 9. Unit 4 continued 10. Unit 5: I come from a big family 11. Unit 5 continued 12. Unit 6: How often do you exercise? 13. Unit 6 continued 14. Presentations / Final test review 15. Speaking Final / Review <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: Feedback will be given for daily speaking and listening activities, class participation, and two speaking exams. Students are also evaluated on their ability to use English as much as possible during class hours.</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>Interchange 5th Edition, Student's Book 1 著者名: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press. (9781316622681)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>Notebook, pencils, and English dictionary.</p>	

授業科目名 (副題)	英語講読(a)		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>F. Scott Fitzgerald著 “Winter Dreams”を精読し、テキストの内容を把握し概要を英語でまとめます。実際の場面で使われている英語表現や言葉のニュアンスを理解し、分析的にテキストを読み、作品の主題について考えテーマに沿って論理的なエッセイを英語で書きます。テキストの難解な表現や文化及び社会背景については、教師が説明します。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実践的な英語表現を正しく理解することができる。 ②行間を読むことができる。 ③テキストを英語でまとめることができる。 ④テーマに沿って論理的な英語の小論文を書くことができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業は予習をしたうえで出席するように予習の習慣をつけてください。授業後は授業で学んだテキストを英語で内容が理解できるまで何度も読み復習をしてください。授業の理解度を確認するために、テキストの内容について問題を出しますので次の授業までに準備しておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>内容把握課題(30%)、要旨のまとめ(20%)、小論文(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題及び要旨のまとめは、授業中に解答を解説します。 ・エッセイは、後日添削して返却します。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>予習、復習を怠らず、理解できないところは質問をしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語講読(a)
担当者	谷山 澤子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this class 2. Read "Winter Dreams" (pp.1-3) 3. Read "Winter Dreams" (pp.4-7) 4. Read "Winter Dreams" (pp.7-10) 5. Read "Winter Dreams" (pp.11-13) 6. Read "Winter Dreams" (pp.14-16) 7. Read "Winter Dreams" (pp.17-19) 8. Read "Winter Dreams" (pp. 20-22) 9. Read "Winter Dreams" (pp. 23-25) 10. Read "Winter Dreams" (pp. 26-28) 11. Read "Winter Dreams" (pp. 29-31) 12. Read "Winter Dreams" (pp. 32-34) 13. Read "Winter Dreams" (pp. 35-37) 14. Introduction to essay writing in English 15. Essay writing <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、要旨のまとめ、小論文</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『フィッツジェラルド短編集』 著者名: 著者 F. Scott Fitzgerald 出版社: 研究社 (9.78433E+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	英語講読(a)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 様々な英文テキストを読み、英文の内容を正しく理解し、展開されている論理やストーリーを正確に把握し、内容について自分の意見も述べられるようになることを学びます。</p> <p>[到達目標] ①英語で書かれた内容を正しく理解し、展開されている論理やストーリーを正確に把握できるようになる。 ②辞書等を使いこなして、社会に出ても自分ひとりの力で英語力を向上させることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストの内容を自分で辞書を使い予習しておいてください。ときどき、理解度の確認のために小テストを行うので、学習した内容は復習をしっかりとっておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に行う理解度確認のための小テストを(80%)、予習と口頭発表を(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持ってきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語講読(a)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The Happy Prince, p.1-2 2. The Happy Prince, p.3-4 3. The Happy Prince, p.5-6 4. The Happy Prince, p.7-8 5. The Happy Prince, p.9-10 ここまでの理解度確認 6. The Happy Prince, p.11-12 7. The Happy Prince, p.13-14 8. The Happy Prince, p.15-16 9. The Happy Prince, p.17-18 10. The Happy Prince, p.19-20 ここまでの理解度確認 11. The Selfish Giant, p.21-22 12. The Selfish Giant, p.23-24 13. The Selfish Giant, p. 25-26 14. The Selfish Giant, p. 27-28 15. The Selfish Giant, p. 29-30 ここまでの理解度確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『The Happy Prince and The Selfish Giant』 著者名: Oscar Wilde 出版社: 南雲堂 (978-4-523-06642-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>特に指定しませんが、大学生用の英和辞典を使ってください。</p>	

授業科目名 (副題)	英語講読(b)		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>F. Scott Fitzgerald著 “Babylon Revisited”を精読し、テキストの内容を把握し概要を英語でまとめます。実際の場面で使われている英語表現や言葉のニュアンスを理解し、分析的にテキストを読み、作品の主題について考えテーマに沿って論理的なエッセイを英語で書きます。テキストの難解な表現や文化及び社会背景については、教師が説明します。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実践的な英語表現を正しく理解することができる。 ②行間を読むことができる。 ③テキストを英語でまとめることができる。 ④テーマに沿って論理的な英語の小論文を書くことができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業は予習をしたうえで出席するように予習の習慣をつけてください。授業後は授業で学んだ英語表現を使えるように復習をしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>内容把握課題(30%)、要旨のまとめ(20%)、小論文(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題及び要旨のまとめは、授業中に解答を解説します。 ・エッセイは、後日添削して返却します。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>予習、復習を怠らず、理解できないところは質問をしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語講読(b)
担当者	谷山 澤子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this class 2. Read "Babylon Revisited" (pp. 38-40) 3. Read "Babylon Revisited" (pp. 41-43) 4. Read "Babylon Revisited" (pp. 44-46) 5. Read "Babylon Revisited" (pp. 47-49) 6. Read "Babylon Revisited" (pp. 50-52) 7. Read "Babylon Revisited" (pp. 53-55) 9. Read "Babylon Revisited" (pp. 56-58) 10. Read "Babylon Revisited" (pp. 59-61) 11. Read "Babylon Revisited" (pp. 62-64) 12. Read "Babylon Revisited" (pp. 65-67) 13. Read "Babylon Revisited" (pp. 68-71) 14. Introduction to essay writing in English 15. Essay writing <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 内容把握課題、要旨のまとめ、小論文</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『フィッツジェラルド短編集』 著者名: 著者F. Scott Fitzgerald 出版社: 研究社 (9.78433E+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>プリントを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語講読(b)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 様々な英文テキストを読み、英文の内容を正しく理解し、展開されている論理やストーリーを正確に把握し、内容について自分の意見も述べられるようになることを学びます。</p> <p>[到達目標] ①英語で書かれた内容を正しく理解し、展開されている論理やストーリーを正確に把握できるようになる。 ②辞書等を使いこなして、社会に出ても自分ひとりの力で英語力を向上させることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストの内容を自分で辞書を使い予習しておいてください。ときどき、理解度の確認のために小テストを行うので、学習した内容は復習をしっかりとっておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に行う3回の小テストを(80%)、予習と口頭発表を(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持ってきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語講読(b)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Marie Antoinette of Versailles. Part 1,Practice 1 2.Marie Antoinette of Versailles. Part 2,Practice 2 3.Tragedy in the Swiss Alps. Part 1, Practice3 4.Tragedy in the Swiss Alps. Part 2, Practice4 5.文法と文章理解のための復習 6.The Hidden Gold of the Incas. Part 1,Practice 5 7.The Hidden Gold of the Incas. Part 2,Practice 6 8.Titus and the Lion. Part 1, Practice 7 9.Titus and the Lion. Part 2, Practice 8 10.文法と文章理解のための復習 11.The Legend of Atlantis. Part 1, Practice 9 12.The Legend of Atlantis. Part 2, Practice 10 13.The Curse of Tutankhamen. Part 1, Practice11 14.The Curse of Tutankhamen. Part 2, Practice12 15.文法と文章理解のための復習 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Tell Me a Story! -More Readings in Easy English』 著者名 :Brian Powle, Kenneth Kendrick 出 版社 :南雲堂 (978-4-523-17563-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>特に指定しませんが、大学生用の英和辞典を使ってください。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>この授業では英語のコミュニケーション能力の中でも4技能をフルに活用し、大学生レベルの英語力を強化するために、バーナード・マラマッドの名作“The First Seven Years”を丁寧に読み、重要な点について論理的に考え、分析し小論文を書く能力を身に付けます。授業は、テキストの内容を正しく理解し、内容把握の後、物語のポイントとなることについてディスカッションをします。語彙や文法、テキストの内容、行間について理解しているかどうかを把握するために、課題を出します。テキストの内容が正確に理解できたところで、英語で小論文の書き方を学び、テーマに沿ってエッセイを英語で書きます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テキストの内容を正確に把握することができる。 ② テキストの要旨を英語でまとめることができる。 ③ 論理的なエッセイを英語で書くことができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習としてテキストを読み、授業で尋ねたい質問を準備してください。復習として授業で読んだところを英語で理解できるまで読んでください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>内容把握課題(20%)、要旨のまとめ(30%)、エッセイ(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題及び要旨のまとめは、授業中に確認します。 ・エッセイは、後日添削して返却します。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>必ず予習・復習をし、理解できないところは質問してください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	谷山 澤子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this English class. 2. Read “The First Seven Years” (pp. 1-3) 3. Question and discussion of “The First Seven Years” (pp. 1-3) 4. Read “The First Seven Years” (pp. 4-6) 5. Question and discussion of “The First Seven Years” (pp. 4-6) 6. Read “The First Seven Years” (pp. 7-9) 7. Question and discussion of “The First Seven Years” (pp. 7-9) 8. Read “The First Seven Years” (pp. 10-12) 9. Question and discussion of “The First Seven Years” (pp. 10-12) 10. Read “The First Seven Years” (pp. 13-15) 11. Question and discussion of “The First Seven Years” (pp. 13-15) 12. Read “The First Seven Years” (pp. 16-19) 13. Question and discussion of “The First Seven Years” (pp. 16-19) 14. Introduction to essay writing in English 15. Essay writing <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、要旨のまとめ、エッセイ</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『A Summer’s Reading and Other Stories』 著者名: Bernard Malamud著 出版社: 開文社出版株式会社 (978-4-87571-029-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 基本的な英語力を総合的に向上させるために、様々な練習問題に取り組めるテキストを用います。基礎的な英文法の習得を中心に、リーディングやライティング、リスニングやスピーキングをバランスよく学びます。また、社会人になってからも独学で英語力を向上させることができるように、英和辞典等を上手に活用する方法を学びます。</p> <p>[到達目標] ①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前には必ずテキストの予習をしてください。知らない単語の意味を調べておき、テキスト添付のCDを聞いて正しく発音できるようにしておいてください。また、ユニットが二つ終わるごとに理解の確認のために小テストをしますの で、復習をしっかりしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 一つのユニットが終わるごとに授業中に行う小テストが(70%)、予習と口頭発表による授業への取り組みを(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持ってきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語と英語の違いについて 2. Pre-unit. Unit 1. Welcome to Vancouver Getting Ready, Conversation, 3. Unit 1. Welcome to Vancouver Breaking Down the Grammer, Grammer Checking, Reading Unit 1の理解度確認 4. Unit 2. Ryo Loves San Francisco. Getting Ready, Conversation 5. Unit 2. Ryo Loves San Francisco Breaking Down the Grammer, Grammer Checking, Reading Unit 2の理解度確認 6. Unit 3. British City in Canada. Getting Ready, Conversation 7 Unit 3. British City in Canada Breaking Down the Grammer, Grammer Checking, Reading Unit 3の理解度確認 8. Unit 4. L.A. Style Getting Ready, Conversation 9. Unit 4. L.A. Style Breaking Down the Grammer, Grammer Checking, Reading Unit 4の理解度確認 10. Unit 5. The Canacian Rockies Getting Ready, Conversation 11. Unit 5. The Canacian Rockies Breaking Down the Grammer, Grammer Checking, Reading Unit 5の理解度確認 12. Unit 6. The Grand Canyon Getting Ready, Conversation 13. Unit 6. The Grand Canyon Breaking Down the Grammer, Grammer Checking, Reading Unit 6の理解度確認 14. Unit7. T.O.-- Toronto, Ontario Getting Ready, Conversation 15. Unit7. T.O.-- Toronto, Ontario Breaking Down the Grammer, Grammer Checking, Reading Unit 7の理解度確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『English Missions!! Starter』 著者名: Robert Hickling, Misato Usukura 出版社: 金星堂 (978-4-7647-4070-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>特に指定はしませんが、例文がたくさん載っている英和辞典</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)		
担当者	杉田 米行		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	○
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>皆さんが社会に旅立つ前に英語を学ぶ最後の機会になります。英語が得意・好きな人もいれば、そうでない人もいるかもしれません。もういちど英語の最初から復習しながら、徐々に大学英语へ進んでいきましょう。英語力を高める方法はいろいろありますが、聞く、読む、書く、話すの4つの技能を伸ばしましょう。</p> <p>教科書を中心に授業を行います。私の役目は皆さんの英語力アップの支援をすることです。皆さんがしっかりと理解できるまで、さまざまな角度から説明をします。しっかりと理解した上で、暗唱に挑戦してみましょう。実は、英語力アップにとって、暗唱は効果的です。日本語を見ると即座に英語がでてくるようにしましょう。そして、その暗唱した英文を書いてみましょう。そうすることで、使える英語になります。</p> <p>この授業では、「エクストラポイント制度」を用意しています。皆さんの英語力アップの「やる気」を見せてください。NHKラジオでは基礎英語0～3、ラジオ英会話、ポキャプライダー、エンジョイ・シンプル・イングリッシュ、英会話タイムトライアル、高校生からはじめる「現代英語」、遠山頭の英会話楽習、入門ビジネス英語、実践ビジネス英語、世界へ発信！ニュースで英語術など数多くの番組が提供されています。1つでも2つでも構いませんので、毎回聴いてください。また、英検、TOEIC等英語の外部試験に挑戦してください。そのほか、教室の外で授業以外のことで英語力アップに努力した人にエクストラポイントが提供されます。詳しくはオリエンテーションで説明いたします。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己紹介や自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて英語で述べ、受け答えができるようになる。 ②場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤発音や会話練習に積極的に参加できるようになる。 ⑥聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語は辞書をひいて確認しておいてください。 ・次の授業のテキストの指定箇所を読み、わからない単語などがあれば辞書で意味を調べておいてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業への参加度・授業態度(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>原則として、試験の次の授業内でフィードバックをします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>毎回、授業の最後に「振り返りアンケート」をとります。今回授業で学んだこと・まだ良く分からないかもしれないことを記入してください。疑問点を解決することが大切です。また、もっとこの点を説明して欲しかった等のコメントも書いて下さい。すべて読み、次回の授業に反映させます。授業で学んだ基本的な語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングを確実に身に付けてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	杉田 米行
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this class (Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、エクストラポイント制度紹介、自己紹介等) 2. やり直し英語#1: be動詞現在形・過去形(肯定・疑問・否定)－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#1; 英語の基礎リスニング#1 3. 前回の復習; やり直し英語#2: 一般動詞現在・過去形(肯定・疑問・否定)－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#2; 英語の基礎リスニング#2 4. 前回の復習; やり直し英語#3: 疑問詞・命令文－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#3; 英語の基礎リスニング#3 5. 前回の復習; 理解度確認テスト#1; 受講生との個別面談#1 6. 理解度確認テスト#1の復習; やり直し英語#4: 現在進行形・代名詞・名詞の複数形－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#4; 英語の基礎リスニング#4 7. 前回の復習; やり直し英語#5: 助動詞－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#5; 英語の基礎リスニング#5 8. 前回の復習; やり直し英語#6: 未来形－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#6; 英語の基礎リスニング#6 9. 前回の復習; 理解度確認テスト#2; 受講生との個別面談#2 10. 理解度確認テスト#2の復習; やり直し英語#7: 動名詞－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#7; 英語の基礎リスニング#7 11. 前回の復習; やり直し英語#8: 不定詞－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#8; 英語の基礎リスニング#8 12. 前回の復習; やり直し英語#9: 比較級－重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の基礎講読#9; 英語の基礎リスニング#9 13. 前回の復習; 理解度確認テスト#3; 受講生との個別面談#3 14. 理解度確認テスト#3の復習; やり直し英語#1～#9の総復習; 英語の基礎講読#1～#9総復習; 英語の基礎リスニング#1～#9総復習; 受講生との個別面談#4 15. 前回の復習; 前期授業全体理解度テスト; 受講生との個別面談#5 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 授業への参加・貢献(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <ul style="list-style-type: none"> * PDF等で配布予定 * 新TOEICRTesT リスニング対策基礎問題集<CD付> - New Steps to Success in the TOEICRTesTListening WORKBOOK 1 著者名: David E. Bramley / 中井弘一 著 出版社: 松柏社 (978-4-88198-660-8 C3082) <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業内で適宜ハンドアウトを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)		
担当者	杉田 米行		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	<input type="radio"/>	反転授業	<input type="radio"/>
ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>
プレゼンテーション	<input type="radio"/>	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	<input type="radio"/>	Moodle	<input type="radio"/>
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>皆さんが社会に旅立つ前に英語を学ぶ最後の機会になります。英語が得意・好きな人もいれば、そうでない人もいるかもしれません。もういちど英語の最初から復習しながら、徐々に大学英语へ進んでいきましょう。英語力を高める方法はいろいろありますが、聞く、読む、書く、話すの4つの技能を伸ばしましょう。</p> <p>教科書を中心に授業を行います。私の役目は皆さんの英語力アップの支援をすることです。皆さんがしっかりと理解できるまで、さまざまな角度から説明をします。しっかりと理解した上で、暗唱に挑戦してみましょう。実は、英語力アップにとって、暗唱は効果的です。日本語を見ると即座に英語がでてくるようにしましょう。そして、その暗唱した英文を書いてみましょう。そうすることで、使える英語になります。</p> <p>この授業では、「エクストラポイント制度」を用意しています。皆さんの英語力アップの「やる気」を見せてください。NHKラジオでは基礎英語0～3、ラジオ英会話、ポキャプライダー、エンジョイ・シンプル・イングリッシュ、英会話タイムトライアル、高校生からはじめる「現代英語」、遠山頭の英会話楽習、入門ビジネス英語、実践ビジネス英語、世界へ発信！ニュースで英語術など数多くの番組が提供されています。1つでも2つでも構いませんので、毎回聴いてください。また、英検、TOEIC等英語の外部試験に挑戦してください。そのほか、教室の外で授業以外のことで英語力アップに努力した人にエクストラポイントが提供されます。詳しくはオリエンテーションで説明いたします。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己紹介や自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて英語で述べ、受け答えができるようになる。 ②場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤発音や会話練習に積極的に参加できるようになる。 ⑥聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語は辞書をひいて確認しておいてください。 ・次の授業のテキストの指定箇所を読み、わからない単語などがあれば辞書で意味を調べておいてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業への参加度・授業態度(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>原則として、試験の次の授業内でフィードバックをします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>毎回、授業の最後に「振り返りアンケート」をとります。今回授業で学んだこと・まだ良く分からないかもしれないことを記入してください。疑問点を解決することが大切です。また、もっとこの点を説明して欲しかった等のコメントも書いて下さい。すべて読み、次回の授業に反映させます。授業で学んだ基本的な語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングを確実に身に付けてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	杉田 米行
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this class(Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、エクストラポイント制度紹介、自己紹介等) 2. やり直し英語#1:be動詞現在形・過去形(肯定・疑問・否定)ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#1;英語の基礎リスニング#1 3. 前回の復習;やり直し英語#2:一般動詞現在・過去形(肯定・疑問・否定)ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#2;英語の基礎リスニング#2 4. 前回の復習;やり直し英語#3:疑問詞・命令文ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#3;英語の基礎リスニング#3 5. 前回の復習;理解度確認テスト#1;受講生との個別面談#1 6. 理解度確認テスト#1の復習;やり直し英語#4:現在進行形・代名詞・名詞の複数形ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#4;英語の基礎リスニング#4 7. 前回の復習;やり直し英語#5:助動詞ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#5;英語の基礎リスニング#5 8. 前回の復習;やり直し英語#6:未来形ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#6;英語の基礎リスニング#6 9. 前回の復習;理解度確認テスト#2;受講生との個別面談#2 10. 理解度確認テスト#2の復習;やり直し英語#7:動名詞ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#7;英語の基礎リスニング#7 11. 前回の復習;やり直し英語#8:不定詞ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#8;英語の基礎リスニング#8 12. 前回の復習;やり直し英語#9:比較級ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル;英語の基礎講読#9;英語の基礎リスニング#9 13. 前回の復習;理解度確認テスト#3;受講生との個別面談#3 14. 理解度確認テスト#3の復習;やり直し英語#1~#9の総復習;英語の基礎講読#1~#9総復習;英語の基礎リスニング#1~#9総復習;受講生との個別面談#4 15. 前回の復習;前期授業全体理解度テスト;受講生との個別面談#5 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法:授業への参加・貢献(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <ul style="list-style-type: none"> * PDF等で配布予定 * 新TOEICRTesT リスニング対策基礎問題集<CD付> - New Steps to Success in the TOEICRTesTListening WORKBOOK 1 著者名:David E. Bramley/中井弘一 著 出版社:松柏社 (978-4-88198-660-8 C3082) <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業内で適宜ハンドアウトを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)		
担当者	大川 弘子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業内での活動は、可能な限り英語で行い、徐々に英語を使うことに慣れてください。簡単な英語による自己紹介や教科書各課で学ぶ表現をもとに、基本的な英語のやり取りを学びます。</p> <p>教科書を中心に授業を行います。1課を2週(前半・後半)に渡って学習します。まず1週目(前半)には、映像を見る前に関連する質問に答え、映像の内容を推測してから、「字幕無し」の映像を見ます。その後、音声のみを聴きスクリプト(台詞・せりふ)の空所穴埋めをします。再度「字幕有り」の映像を見て答え合わせをします。映像の概要を問うT/F形式の内容把握問題に答え、詳細な内容把握問題にも答えてもらいます。そして、会話全体の流れを確認した後、ペアもしくはチームでスクリプトに沿ってRole Play(役割演習)をします。</p> <p>2週目(後半)では、映像に出てくる基本的な英文法を確認し、穴埋めや選択式の問題に答えたり、並べ替え英作にも取り組みます。会話中に出て来た重要表現を確認し、その類似表現も学びます。パターン表現を使ってRole Playをします。最後に「Reading」で100語程度の英文を読み、T/F形式の内容把握問題に答えます。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己紹介や自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができるようになる。 ②場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤発音や会話練習に積極的に参加できるようになる。 ⑥聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。 			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語は辞書をひいて確認しておいてください。 ・次の授業のテキストの指定箇所を読み、疑問に思った箇所に下線を引き“?”を付けておいてください。 ・毎回、授業始めと終わりに「確認クイズ」を出しますので、復習をしておいてください。 <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p>			
<p>[成績評価方法]</p> <p>発表や授業態度(20%)、毎週授業最後の確認クイズ(20%)、「(前期中間)理解度の確認1回目」(30%)、「(前期後半)理解度の確認2回目」(30%)で評価します。</p>			
<p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>試験の次の授業内でフィードバックをします。</p>			
<p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p>			
<p>[受講生への要望、その他]</p> <p>毎回、授業始めに「前回授業の確認クイズ」と、授業終わりに「授業振り返りクイズ」を行います。そして、「今回授業で学んだこと・まだ良く分からないかもしれないこと」を記入してもらいます。疑問点を解決することが大切です。</p> <p>授業で学んだ基本的な語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングを確実に身に付けてください。</p> <p>間違いを恐れずに、英語で積極的にコミュニケーションしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	大川 弘子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this class(テキストの進め方を説明。自己紹介。発音練習1回目)、 Unit 1: Giving Directions and Helping(前半:道案内で使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。) 2. 発音練習2回目とUnit 1: Giving Directions and Helping(後半:道案内で使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。) 3. Unit 2: Talking about Yourself(前半:自己紹介で使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。) 4. Unit 2: Talking about Yourself(後半:自己紹介で使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。) 5. Unit 3: Host Family(前半:留学生などを迎える時に使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。) 6. Unit 3: Host Family(後半:留学生などを迎える時に使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。) 7. Unit 4: Commuting by Train(前半:電車の乗換説明に使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。) 8. Unit 4: Commuting by Train(後半:電車の乗換説明に使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。) 9. 「(前期中間)理解度の確認1回目(範囲:Unit 1~4)」と、Unit 5: Taking Classes(前半:物事の描写に使える英語表現(1)) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。) 10. Unit 5: Taking Classes(後半:物事の描写に使える英語表現(1)) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。) 11. Unit 6: Talking with a Teacher(前半:褒める時に使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。) 12. Unit 6: Talking with a Teacher(後半:褒める時に使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。) 13. Unit 7: Finding Friends(前半:自分の趣味や好みを伝える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。) 14. Unit 7: Finding Friends(後半:自分の趣味や好みを伝える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。) 15. 前期授業(Unit 5~7)の総復習と、「(前期後半)理解度の確認2回目(範囲:Unit 5~7)」 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:発表や授業態度(20%)、毎週授業最後の確認クイズ(20%)、「(まとめテスト中間)理解度の確認1回目」(30%)、「(まとめテスト後半)理解度の確認2回目」(30%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Welcome to Nippon! Building International Friendships(ようこそ！ニッポンへー映像で学ぶ大学基礎英語 留学生の日本文化体験)』 著者名:(田地野 彰 監修) 石井 洋佑 / 加藤 由嵩 / 中川 浩 編著 出版社:(株)朝日出版社 (978-4-255-15613-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業内で適宜ハンドアウトを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 基本的な英語力を総合的に向上させるために、様々な練習問題に取り組めるテキストを用います。基礎的な英文法の習得を中心に、リーディングやライティング、リスニングやスピーキングをバランスよく学びます。また、社会人になってからも独学で英語力を向上させることができるように、英和辞典等を上手に活用する方法を学びます。</p> <p>[到達目標] ①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前には必ずテキストの予習をしてください。知らない単語の意味を調べておき、テキスト添付のCDを聞いて正しく発音できるようにしておいてください。また、ユニットが三つ終わるごとに理解度の確認のために小テストをしますので、復習をしっかりとっておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に行う3回の小テストが(70%)、予習と口頭発表による授業への取り組みを(30%)の割合で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持ってきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と日本語の違いについて 2. Unit 1 自己紹介 (名詞) 3. Unit 2 家族・ペット (動詞) 4. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～) 5. 文法の復習と英作文 6. Unit 4 大学生活 (人称代名詞) 7. Unit 5 食べ物 (疑問詞) 8. Unit 6 コンサート (How+形容詞/副詞～?) 9. English songs 10. 文法の復習と英作文 11. Unit 7 道案内 (助動詞can, may, must) 12. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞would, could, should) 13. Unit 9 ジェスチャー (前置詞) 14. 文法の復習と英作文 15. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Forerunner to Power-Up English』 著者名: JACETリスニング研究会 出版社: 南雲堂 (978-4-523-17624-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>特に指定しませんが、例文がたくさん載っている英和辞典。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 基本的な英語力を総合的に向上させるために、様々な練習問題に取り組めるテキストを用います。基礎的な英文法の習得を中心に、リーディングやライティング、リスニングやスピーキングをバランスよく学びます。また、社会人になってからも独学で英語力を向上させることができるように、英和辞典等を上手に活用する方法を学びます。</p> <p>[到達目標] ①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前には必ずテキストの予習をしてください。知らない単語の意味を調べておき、テキスト添付のCDを聞いて正しく発音できるようにしておいてください。また、ユニットが三つ終わるごとに理解度の確認のために小テストをしますので、復習をしっかりとっておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に行う3回の小テストが(70%)、予習と口頭発表による授業への取り組みを(30%)の割合で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持ってきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と日本語の違いについて 2. Unit 1 自己紹介 (名詞) 3. Unit 2 家族・ペット (動詞) 4. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～) 5. 文法の復習と英作文 6. Unit 4 大学生活 (人称代名詞) 7. Unit 5 食べ物 (疑問詞) 8. Unit 6 コンサート (How+形容詞/副詞～?) 9. English songs 10. 文法の復習と英作文 11. Unit 7 道案内 (助動詞can, may, must) 12. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞would, could, should) 13. Unit 9 ジェスチャー (前置詞) 14. 文法の復習と英作文 15. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Forerunner to Power-Up English』 著者名: JACETリスニング研究会 出版社: 南雲堂 (978-4-523-17624-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>特に指定しませんが、例文がたくさん載っている英和辞典。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>この授業では英語のコミュニケーション能力の中でも4技能を全て活用し、大学生レベルの英語力を強化するために、バーナード・マラマッドの名作“A Summer’s Reading”及びW. サマセット・モームの短編“The Romantic Young Lady”を丁寧に読み、重要な点について論理的に考え、分析し小論文を書く能力を身に付けます。授業は、テキストの内容を正しく理解し、内容把握の後、物語のポイントとなることについてディスカッションをします。語彙や文法、テキストの内容、行間について理解しているかどうかを把握するために、課題を出します。テキストの内容が正確に理解できたところで、英語で小論文の書き方を学び、テーマに沿ってエッセイを英語で書きます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①テキストの内容を正確に把握することができる。 ②テキストの要旨を英語でまとめることができる。 ③論理的なエッセイを英語で書くことができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習としてテキストを読み、授業で尋ねたい質問を準備してください。復習として授業で読んだところを英語で理解できるまで読んでください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>テキストの内容把握(20%)、要旨のまとめ(30%)、エッセイ(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容及び要旨のまとめは、授業中に確認します。 ・エッセイは、後日添削して返却します。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>必ず予習・復習をし、理解できないところは質問してください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	谷山 澤子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this English class 2. Read "A Summer's Reading"(pp. 20-22) 3. Read "A Summer's Reading"(pp. 23-25) 4. Read "A Summer's Reading"(pp. 26-28) 5. Read "A Summer's Reading"(pp. 29-30) 6. Read "A Summer's Reading"(pp. 31-32) and discussion of the story 7. Essay writing 8. Read "The Romantic Young Lady (pp.4-7) 9. Read "The Romantic Young Lady"(pp. 8-13) 10. Read "The Romantic Young Lady"(pp. 14-19) 11. Read "The Romantic Young Lady"(pp. 20-25) 12. Read "The Romantic Young Lady"(pp. 26-31) 13. Read "The Romantic Young Lady"(pp. 32-37) 14. Discussion of "The Romantic Young Lady" 15. Essay writing <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: テキストの内容把握、要旨のまとめ、エッセイ</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『A Summer's Reading and Other Stories』 著者名: Bernard Malamud著 出版社: 開文社出版株式会社 (978-4-87571-029-5)</p> <p>『College Reader for Everybody』 著者名: W. S. Maugham他3名 出版社: 音羽書房鶴見書店 (978-4-7553-0119-3)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業中にプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 基本的な英語力を総合的に向上させるために、様々な練習問題に取り組めるテキストを用います。基礎的な英文法の習得を中心に、リーディングやライティング、リスニングやスピーキングをバランスよく学びます。また、社会人になってからも独学で英語力を向上させることができるように、英和辞典等を上手に活用する方法を学びます。</p> <p>[到達目標] ①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前には必ずテキストの予習をしてください。知らない単語の意味を調べておき、テキスト添付のCDを聞いて正しく発音できるようにしておいてください。また、ユニットが二つ終わるごとに理解の確認のために小テストをしますので、復習をしっかりとっておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 一つのユニットが終わるたびに授業中に行う小テストが(70%)、予習や口頭発表などの授業への取り組みを(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持ってきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 8. Big Texas Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar 2. Unit 8. Texas Grammar Checking, Reading Unit 8の理解度確認 3. Unit 9. Ottawa—The Capital Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar 4. Unit 9. Ottawa—The Capital Grammar Checking, Reading Unit 9の理解度確認 5. Unit 10. Funky New Orleans Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar 6. Unit 10. Funky New Orleans Grammar Checking, Reading Unit 10の理解度確認 7. Unit 11. Charming Quebec City Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar 8. Unit 11. Charming Quebec City Grammar Checking, Reading Unit 11の理解度確認 9. Unit 12. Florida Sunshine Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar 10. Unit 12. Florida Sunshine Grammar Checking, Reading Unit 12の理解度確認 11. Unit 13. A Taste of P.E.I. Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar 12. Unit 13. A Taste of P.E.I. Grammar Checking, Reading Unit 13の理解度確認 13. Unit 14.N.Y.C.--The Big Apple Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar 14. Unit 14.N.Y.C.--The Big Apple Grammar Checking, Reading Unit 14の理解度確認 15. Unit 15. Niagara Falls Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法：小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『English Missions! Starter』 著者名：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂 (978-4-7647-4070-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 特に指定はしませんが、例文がたくさん載っている英和辞典</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)		
担当者	杉田 米行		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	○
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>皆さんが社会に旅立つ前に英語を学ぶ最後の機会になります。英語が得意・好きな人もいれば、そうでない人もいるかもしれません。もういちど英語の最初から復習しながら、徐々に大学英语へ進んでいきましょう。英語力を高める方法はいろいろありますが、聞く、読む、書く、話すの4つの技能を伸ばしましょう。</p> <p>教科書を中心に授業を行います。私の役目は皆さんの英語力アップの支援をすることです。皆さんがしっかりと理解できるまで、さまざまな角度から説明をします。しっかりと理解した上で、暗唱に挑戦してみましょう。実は、英語力アップにとって、暗唱は効果的です。日本語を見ると即座に英語がでてくるようにしましょう。そして、その暗唱した英文を書いてみましょう。そうすることで、使える英語になります。</p> <p>この授業では、「エクストラポイント制度」を用意しています。皆さんの英語力アップの「やる気」を見せてください。NHKラジオでは基礎英語0～3、ラジオ英会話、ポキャプライダー、エンジョイ・シンプル・イングリッシュ、英会話タイムトライアル、高校生からはじめる「現代英語」、遠山頭の英会話楽習、入門ビジネス英語、実践ビジネス英語、世界へ発信！ニュースで英語術など数多くの番組が提供されています。1つでも2つでも構いませんので、毎回聴いてください。また、英検、TOEIC等英語の外部試験に挑戦してください。そのほか、教室の外で授業以外のことで英語力アップに努力した人にエクストラポイントが提供されます。詳しくはオリエンテーションで説明いたします。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学生活、身の回りのできごと、社会情勢等について簡単なコミュニケーションを英語ですることができるようになる。 ② さまざまな場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③ 相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④ 理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤ 暗誦練習やドリルに積極的に参加できるようになる。 ⑥ 聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦ 分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語は辞書をひいて確認しておいてください。 ・次の授業のテキストの指定箇所を読み、わからない単語などがあれば辞書で意味を調べておいてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業への参加度・授業態度(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>原則として、試験の次の授業内でフィードバックをします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>毎回、授業の最後に「振り返りアンケート」をとります。今回授業で学んだこと・まだ良く分からないかもしれないことを記入してください。疑問点を解決することが大切です。また、もっとこの点を説明して欲しかった等のコメントも書いて下さい。すべて読み、次回の授業に反映させます。授業で学んだ基本的な語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングを確実に身に付けてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	杉田 米行
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this class (Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、エクストラポイント制度紹介、自己紹介等) 2. やり直し英語#10: 存在(There is~, There are~)ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#1; 英語の中級リスニング#1 3. 前回の復習; やり直し英語#11: 接続詞・受動態ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#2; 英語の中級リスニング#2 4. 前回の復習; やり直し英語#12: 現在完了1ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#3; 英語の中級リスニング#3 5. 前回の復習; 理解度確認テスト#1; 受講生との個別面談#1 6. 理解度確認テスト#1の復習; やり直し英語#13: 現在完了2ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#4; 英語の中級リスニング#4 7. 前回の復習; やり直し英語#14: 間接疑問文ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#5; 英語の中級リスニング#5 8. 前回の復習; やり直し英語#15: 前置詞・会話表現ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#6; 英語の中級リスニング#6 9. 前回の復習; 理解度確認テスト#2; 受講生との個別面談#2 10. 理解度確認テスト#2の復習; やり直し英語#16: 関係代名詞1ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#7; 英語の中級リスニング#7 11. 前回の復習; やり直し英語#17: 関係代名詞2ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#8; 英語の中級リスニング#8 12. 前回の復習; やり直し英語#18: 仮定法の基礎ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#9; 英語の中級リスニング#9 13. 前回の復習; 理解度確認テスト#3; 受講生との個別面談#3 14. 理解度確認テスト#3の復習; やり直し英語#1~#9の総復習; 英語の基礎講読#1~#9総復習; 英語の基礎リスニング#1~#9総復習; 受講生との個別面談#4 15. 前回の復習; 前期授業全体理解度テスト; 受講生との個別面談#5 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 授業への参加・貢献(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <ul style="list-style-type: none"> * PDF等で配布予定 * 新TOEICRTest リスニング対策基礎問題集 <CD付> - New Steps to Success in the TOEICRTest 著者名: David E. Bramley / 中井弘一 著 出版社: 松柏社 (978-4-88198-660-8 C3082) <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業内で適宜ハンドアウトを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)		
担当者	杉田 米行		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	○
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>皆さんが社会に旅立つ前に英語を学ぶ最後の機会になります。英語が得意・好きな人もいれば、そうでない人もいるかもしれません。もういちど英語の最初から復習しながら、徐々に大学英语へ進んでいきましょう。英語力を高める方法はいろいろありますが、聞く、読む、書く、話すの4つの技能を伸ばしましょう。</p> <p>教科書を中心に授業を行います。私の役目は皆さんの英語力アップの支援をすることです。皆さんがしっかりと理解できるまで、さまざまな角度から説明をします。しっかりと理解した上で、暗唱に挑戦してみましょう。実は、英語力アップにとって、暗唱は効果的です。日本語を見ると即座に英語がでてくるようにしましょう。そして、その暗唱した英文を書いてみましょう。そうすることで、使える英語になります。</p> <p>この授業では、「エクストラポイント制度」を用意しています。皆さんの英語力アップの「やる気」を見せてください。NHKラジオでは基礎英語0～3、ラジオ英会話、ポキャプライダー、エンジョイ・シンプル・イングリッシュ、英会話タイムトライアル、高校生からはじめる「現代英語」、遠山頭の英会話楽習、入門ビジネス英語、実践ビジネス英語、世界へ発信！ニュースで英語術など数多くの番組が提供されています。1つでも2つでも構いませんので、毎回聴いてください。また、英検、TOEIC等英語の外部試験に挑戦してください。そのほか、教室の外で授業以外のことで英語力アップに努力した人にエクストラポイントが提供されます。詳しくはオリエンテーションで説明いたします。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学生活、身の回りのできごと、社会情勢等について簡単なコミュニケーションを英語ですることができるようになる。 ② さまざまな場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③ 相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④ 理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤ 暗誦練習やドリルに積極的に参加できるようになる。 ⑥ 聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦ 分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語は辞書をひいて確認しておいてください。 ・次の授業のテキストの指定箇所を読み、わからない単語などがあれば辞書で意味を調べておいてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業への参加度・授業態度(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>原則として、試験の次の授業内でフィードバックをします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>毎回、授業の最後に「振り返りアンケート」をとります。今回授業で学んだこと・まだ良く分からないかもしれないことを記入してください。疑問点を解決することが大切です。また、もっとこの点を説明して欲しかった等のコメントも書いて下さい。すべて読み、次回の授業に反映させます。授業で学んだ基本的な語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングを確実に身に付けてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	杉田 米行
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to this class (Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、エクストラポイント制度紹介、自己紹介等) 2. やり直し英語#10: 存在(There is~, There are~)ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#1; 英語の中級リスニング#1 3. 前回の復習; やり直し英語#11: 接続詞・受動態ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#2; 英語の中級リスニング#2 4. 前回の復習; やり直し英語#12: 現在完了1ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#3; 英語の中級リスニング#3 5. 前回の復習; 理解度確認テスト#1; 受講生との個別面談#1 6. 理解度確認テスト#1の復習; やり直し英語#13: 現在完了2ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#4; 英語の中級リスニング#4 7. 前回の復習; やり直し英語#14: 間接疑問文ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#5; 英語の中級リスニング#5 8. 前回の復習; やり直し英語#15: 前置詞・会話表現ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#6; 英語の中級リスニング#6 9. 前回の復習; 理解度確認テスト#2; 受講生との個別面談#2 10. 理解度確認テスト#2の復習; やり直し英語#16: 関係代名詞1ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#7; 英語の中級リスニング#7 11. 前回の復習; やり直し英語#17: 関係代名詞2ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#8; 英語の中級リスニング#8 12. 前回の復習; やり直し英語#18: 仮定法の基礎ー重要例文の暗唱(日本語を見るとすぐに英語に訳す)とドリル; 英語の中級講読#9; 英語の中級リスニング#9 13. 前回の復習; 理解度確認テスト#3; 受講生との個別面談#3 14. 理解度確認テスト#3の復習; やり直し英語#1~#9の総復習; 英語の基礎講読#1~#9総復習; 英語の基礎リスニング#1~#9総復習; 受講生との個別面談#4 15. 前回の復習; 前期授業全体理解度テスト; 受講生との個別面談#5 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 授業への参加・貢献(40%)、理解度確認テスト#1(10%)、理解度確認テスト#2(10%)、理解度確認テスト#3(10%)、前期授業全体理解度テスト(30%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <ul style="list-style-type: none"> * PDF等で配布予定 * 新TOEIC® Test リスニング対策基礎問題集<CD付> - New Steps to Success in the TOEIC® Test Listening WORKBOOK 1 著者名: David E. Bramley / 中井弘一 著 出版社: 松柏社 (978-4-88198-660-8 C3082) <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業内で適宜ハンドアウトを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)		
担当者	大川 弘子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業内での活動は、可能な限り英語で行い、徐々に英語を使うことに慣れてください。簡単な英語による自己紹介や教科書各課で学ぶ表現をもとに、基本的な英語のやり取りを学びます。</p> <p>教科書を中心に授業を行います。1課を2週(前半・後半)に渡って学習します。まず1週目(前半)には、映像を見る前に関連する質問に答え、映像の内容を推測してから、「字幕無し」の映像を見ます。その後、音声のみを聴きスクリプト(台詞・せりふ)の空所穴埋めをします。再度「字幕有り」の映像を見て答え合わせをします。映像の概要を問うT/F形式の内容把握問題に答え、詳細な内容把握問題にも答えてもらいます。そして、会話全体の流れを確認した後、ペアもしくはチームでスクリプトに沿ってRole Play(役割演習)をします。</p> <p>2週目(後半)では、映像に出てくる基本的な英文法を確認し、穴埋めや選択式の問題に答えたり、並べ替え英作にも取り組みます。会話中に出て来た重要表現を確認し、その類似表現も学びます。パターン表現を使ってRole Playをします。最後に「Reading」で100語程度の英文を読み、T/F形式の内容把握問題に答えます。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己紹介や自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができるようになる。 ②場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤発音や会話練習に積極的に参加できるようになる。 ⑥聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。 			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語は辞書をひいて確認しておいてください。 ・次の授業のテキストの指定箇所を読み、疑問に思った箇所に下線を引き“?”を付けておいてください。 ・毎回、授業始めと終わりに「確認クイズ」を出しますので、復習をしておいてください。 <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p>			
<p>[成績評価方法]</p> <p>発表や授業態度(20%)、毎週授業最後の確認クイズ(20%)、「(後期中間)理解度の確認1回目」(30%)、「(後期後半)理解度の確認2回目」(30%)で評価します。</p>			
<p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>試験の次の授業において、フィードバックする。</p>			
<p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p>			
<p>[受講生への要望、その他]</p> <p>毎回、授業始めに「前回授業の確認クイズ」と、授業終わりに「授業振り返りクイズ」を行います。そして、「今回授業で学んだこと・まだ良く分からないかもしれないこと」を記入してもらいます。疑問点を解決することが大切です。</p> <p>授業で学んだ基本的な語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングを確実に身に付けてください。</p> <p>間違いを恐れずに、英語で積極的にコミュニケーションしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	大川 弘子
<p>[授業計画]</p> <p>1. Unit 8: Potluck(前半:パーティーなどの集まりで使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>2. Unit 8: Potluck(後半:パーティーなどの集まりで使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>3. Unit 9: Sumo(前半:物事の描写に使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>4. Unit 9: Sumo(後半:物事の描写に使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>5. Unit 10: Four Seasons(前半:好きな季節の説明に使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>6. Unit 10: Four Seasons(後半:好きな季節の説明に使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>7. Unit 11: Green Tea(前半:物事の描写に使える英語表現(2)) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>8. Unit 11: Green Tea(後半:物事の描写に使える英語表現(2)) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>9. 「(後期中間)理解度の確認1回目(範囲:Unit 8~11)」と、Unit 12: Japanese Food(前半:料理の説明に使える英語表現)(映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>10. Unit 12: Japanese Food(後半:料理の説明に使える英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>11. Unit 13: Part-time Jobs(前半:アルバイト先で使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>12. Unit 13: Part-time Jobs(後半:アルバイト先で使える英語表現)(映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>Unit 14: Shopping at a Clothing Shop(前半:買い物で使える英語表現) (映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>13. Unit 14: Shopping at a Clothing Shop(後半:買い物で使える英語表現)(映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>Unit 15: Asakusa(前半:オススメの場所を紹介する英語表現)(映像を2回見て各問題に答える。Summaryを完成させ日本語訳、文法などを確認する。Dialogueの聞き取りを完成させる。)</p> <p>14. Unit 15: Asakusa(後半:オススメの場所を紹介する英語表現) (映像を見て復習。Dialogueの日本語訳、文法などを確認。各問題に答える。)</p> <p>15: 後期授業の総復習(8~15)と、「(後期後半)理解度の確認2回目(範囲:Unit 8~15)」</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:発表や授業態度(20%)、毎週授業最後の確認クイズ(20%)、「(まとめテスト中間)理解度の確認1回目」(30%)、「(まとめテスト後半)理解度の確認2回目」(30%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Welcome to Nippon! Building International Friendships (ようこそ！ニッポンへー映像で学ぶ大学基礎英語 留学生の日本文化体験ー)』 著者名:(田地野 彰 / 監修) 石井 洋佑 / 加藤 由崇 / 中川 浩 編著 出版社:(株)朝日出版社 (978-4-255-15613-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業内で適宜ハンドアウトを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 基本的な英語力を総合的に向上させるために、様々な練習問題に取り組めるテキストを用います。基礎的な英文法の習得を中心に、リーディングやライティング、リスニングやスピーキングをバランスよく学びます。また、社会人になってからも独学で英語力を向上させることができるように、英和辞典等を上手に活用する方法を学びます。</p> <p>[到達目標] ①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前には必ずテキストの予習をしてください。知らない単語の意味を調べておき、テキスト添付のCDを聞いて正しく発音できるようにしておいてください。また、ユニットが三つ終わるごとに理解度の確認のために小テストをしますので、復習をしっかりとっておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に行う3回の小テストが(70%)、予習と口頭発表による授業への取り組みを(30%)の割合で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持ってきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形) 2. Unit 12 E-mailを送る 3. Review 1 4. Unit 13 機内で (時、天候などを表すit) 5. 文法の復習と英作文 6. Unit 14 空港で (接続詞) 7. Unit 15 ホテル 8. 不定詞について 9. Unit 16 レストランで (形容詞) 10. 文法の復習と英作文 11. Unit 17 ショッピング (頻度を表す副詞) 12. Unit 18 ベースボール (比較級) 13. Unit 19 ミュージカル鑑賞 (現在完了) 14. 文法の復習と英作文 15. Unit 20 旅行案内 (受動態1) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Forerunner to Power-Up English』 著者名: JACETリスニング研究会 出版社: 南雲堂 (978-4-523-17624-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>特に指定しませんが、例文がたくさん載っている英和辞典。</p>	

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	発問応答、調べ学習		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 基本的な英語力を総合的に向上させるために、様々な練習問題に取り組めるテキストを用います。基礎的な英文法の習得を中心に、リーディングやライティング、リスニングやスピーキングをバランスよく学びます。また、社会人になってからも独学で英語力を向上させることができるように、英和辞典等を上手に活用する方法を学びます。</p> <p>[到達目標] ①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前には必ずテキストの予習をしてください。知らない単語の意味を調べておき、テキスト添付のCDを聞いて正しく発音できるようにしておいてください。また、ユニットが三つ終わるごとに理解度の確認のために小テストをしますので、復習をしっかりとっておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に行う3回の小テストが(70%)、予習と口頭発表による授業への取り組みを(30%)の割合で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを採点し、間違いを添削して返却するときに、間違いの多かった箇所について解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には、必ず英和辞典を持って来るようにして下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形) 2. Unit 12 E-mailを送る 3. Review 1 4. Unit 13 機内で (時、天候などを表すit) 5. 文法の復習と英作文 6. Unit 14 空港で (接続詞) 7. Unit 15 ホテル 8. 不定詞について 9. Unit 16 レストランで (形容詞) 10. 文法の復習と英作文 11. Unit 17 ショッピング (頻度を表す副詞) 12. Unit 18 ベースボール (比較級) 13. Unit 19 ミュージカル鑑賞 (現在完了) 14. 文法の復習と英作文 15. Unit 20 旅行案内 (受動態1) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 小テストと発問応答</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『Forerunner to Power-Up English』 著者名: JACETリスニング研究会 出版社: 南雲堂 (978-4-523-17624-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>特に指定しませんが、例文がたくさん載っている英和辞典。</p>	

授業科目名 (副題)	音楽鑑賞 (音楽への誘い)
担当者	小松原 祥子
実務経験のある教員による授業	
実務経験内容	
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	
[ICTの活用]	
manaba	○ Moodle
その他	
<p>[授業全体の内容の概要] CDや映像などを用いて、西洋音楽の歴史的流れに沿った視点と、音楽の構造的な魅力に基づいた選曲により、わかりやすい解説を加えながら鑑賞します。音楽を身体で感じたり、打楽器を取り入れた活動で楽曲の特徴を味わったりできるようにします。</p> <p>[到達目標] ①音楽を聴き、楽しむことができる ②音楽を聴き、そこにあるメッセージや基本的な特徴を感じとることができる ③感じたことを言葉や絵で表現することができる</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 配布する資料で、受講する回の音楽が作られた時代の音楽的特徴や背景などに興味を持って、知りおいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(20%)、ワークシート(60%)、小テスト(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ワークシートは、特徴的な内容を授業内で紹介した上で、コメントします。 小テストは、授業内で解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 受講人数は40名以内に制限を行います。</p>	

授業科目名 (副題)	音楽鑑賞 (音楽への誘い)
担当者	小松原 祥子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 様々な楽器や時代の魅力 2.バロックから古典派へ 3.ウィーン古典派 4.古典派 モーツァルトのオペラ(1)アリアの魅力 5.古典派 モーツァルトのオペラ(2)音楽の魅力 6.古典派からロマン派へ(1) ベートーヴェン 交響曲とピアノ作品 7.古典派からロマン派へ(2) ヴィルトウオーゾとピアノ音楽 8.ロマン派 イタリアのオペラ 9.ロマン派 音楽の巨大化 ポスト・ベートーヴェンの交響曲 10. 近・現代:音の光と影 印象派の世界(ドビュッシーとラヴェル) 11.近・現代:ロシアの作曲家 プロコフィエフ 12.比較鑑賞① テンポ 13.比較鑑賞② 拍子とリズム 14.比較鑑賞③ メロディー 15.比較鑑賞⑤ 対照と構造 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、ワークシート、小テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)] 資料プリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	キャリアへのアプローチ I		
担当者	福井 愛美、上野 和廣		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	各回によって、ファイナンシャルプランナーや企業の人事担当者など幅広い分野で活躍している実務家が、社会の仕組みや自立心を培うキャリア教育について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>最初に行う一般常識テスト等を通して、学生が自らの能力を分析し、在学中のどのような点に力を注いで学習すればよいかを見出します。また、さまざまな就労モデルと働き方について知り、ワーク・ライフ・バランスについてや、職業人の常識である労務知識、社会保険制度、税金について学習します。内容に応じて外部講師を招聘し、キャリア教育部、キャリアサポートセンターとも連携した授業を実施します。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生が女性として社会に参画するとはどういうことかを把握することができる。 ② 仕事を核にしたライフデザインを描くことができる。 ③ 自己分析ができるようになる。 ④ さまざまな職業と多様な生き方の選択があることを理解することができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>学生には、常に筆記試験対策の自宅学習を義務付け、適宜小テストを実施してその成果を問うことにします。また、日々新聞等のメディアに関心をもち、経済界の動向を知ることも自主学習とします。外部講師を招いて話を聞いた授業では、必ず振り返りを提出します。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト(30%)、提出物(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは後日添削をして返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>就職試験の準備として、基礎力養成小テストを数回実施し、評価に加えます。</p>			

授業科目名 (副題)	キャリアへのアプローチ I
担当者	福井 愛美、上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、キャリアとは何か 2. 理事長講話(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神、学園の教育綱領、行吉学園の歴史・現在・未来 3. 基礎学力テスト 4. キャリアデザインとは(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・「仕事」とライフデザイン、キャリアデザインを描く 5. 「就職活動の流れや資格について」(・キャリアSC・福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポートセンターの紹介 6. 働き方と生きがい(外部講師、福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人で働く意味 7. ワーク・ライフ・バランスとは(外部講師、福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・女性の生涯と仕事とのバランス 8. 企業・仕事研究 I (福井・上野・キャリアSC) <ul style="list-style-type: none"> ・業種、職種を知ろう 9. 就職活動へのアプローチ(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・知っておきたい就活用語・インターンシップについて 10. 女性のための労務知識(外部講師、福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての義務(税金、社会保険)、働く人の権利等について 11. 職業と仕事理解 I (外部講師、福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな企業、非正規と正規社員の違い 12. 職業と仕事理解 II (外部講師、福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ関係の仕事を知る 13. 企業活動と仕事(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・学生と社会人との違い、「仕事の基本とルール(VTR)」 14. 企業・仕事研究 II (福井・上野・キャリアSC) <ul style="list-style-type: none"> ・情報の集め方 15. 各自のキャリアデザインを描く(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自己分析を踏まえたキャリアデザイン ・レポート提出 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法:小テストと各回での提出物、レポートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>最重要頻出問題集(基礎学力テスト付録教材のため授業にて配布) 著者名:(株)ベネッセi-キャリア 出版社:(株)ベネッセi-キャリア</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『就職の手引き2021』 著者名:キャリアサポートセンター 出版社:株式会社ディスコ</p>	

授業科目名 (副題)	キャリアへのアプローチⅡ		
担当者	福井 愛美、上野 和廣		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係での実務経験を活かして、ビジネス社会での取り組みや、就職活動に関する内容について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>業種や職種を理解するとともに、就職試験の具体例を知り、自らの希望職種の就職試験への計画を立てます。エントリーシートや履歴書を作成するにあたり、自己PRや志望動機を書く実習を行います。また、面接試験の準備として、社会人としてのマナーを習得し、実際にグループディスカッションや模擬グループ面接を行います。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 就職サイトが活用できるようになる。 ② エントリーシートが書けるようになる。 ③ 就職試験のためのマナーとして、文書・電話・Eメールが的確に使えるようになる。 ④ 面接で自信をもって自己PRができるようになる。 ⑤ 就職のためのグループディスカッションができるようになる。 ⑥ 自らの希望・実力に見合った就職先を見つけることができるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>キャリアへのアプローチⅡは演習授業のため、授業を休んだ場合には必ず自主的に休んだ日の内容を確認し、提出物があれば提出してください。毎回、就職に直接役立つ授業内容が実施されますので、必ず復習をして完成させ、実際に活用できるよう準備をしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>各回での課題提出物(60%)と積極的な授業への参加度(20%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>前期に「キャリアへのアプローチⅠ」の単位を修得した学生の継続受講を希望しますが、後期だけでも履修できます。</p>			

授業科目名 (副題)	キャリアへのアプローチⅡ
担当者	福井 愛美、上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職試験へのアプローチⅠ(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に向けて、2年次生の動向を知る 2. 自己分析Ⅰ(福井・上野・キャリアサポート) <ul style="list-style-type: none"> ・学生時代に力を注いだこと 3. 先輩の体験談(外部講師、福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のお話をきく、質疑応答 4. 就職サイトの活用法(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・冬のインターンシップについて 5. 自己分析Ⅱ(福井・上野・キャリアサポート) <ul style="list-style-type: none"> ・自己PR 6. 職業と仕事理解(外部講師、福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ関係の仕事を知る 7. 就職試験へのアプローチⅡ(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーの基本を身に付ける 8. 就職試験のための文書、電話、Eメール実習(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に必要な電話、Eメール、送付状の実習 9. 企業説明会のためのマナー(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、言葉づかい、次回模擬面接の準備 10. 模擬面接Ⅰ実施(外部講師、福井・上野・キャリアサポート) <ul style="list-style-type: none"> ・10教室に分かれて模擬グループ面接実施、外部講師による評価 11. エントリーシートの書き方(福井・上野・キャリアサポート) <ul style="list-style-type: none"> ・志望動機について、情報の集め方 12. 模擬面接Ⅱ実施(外部講師、福井・上野・キャリアサポート) <ul style="list-style-type: none"> ・初回面接指摘事項を改善して臨む 13. グループディスカッションのためのマナー(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションとは、DVDを見る、次回グループディスカッションの準備 14. グループディスカッション実施(外部講師、福井・上野・キャリアサポート) <ul style="list-style-type: none"> ・数教室に分かれてグループディスカッションを実施 15. 自己を客観的に振り返る(福井・上野) <ul style="list-style-type: none"> ・就活計画書を作成する <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 積極的な授業への参加度と課題提出物の内容で評価します。</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 積極的な授業への参加度とレポートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] プリントを配付する</p> <p>[参考文献(ISBN)] 各種就職のための参考書 就職の手引き 著者名: 神戸女子大学・神戸女子短期大学 キャリアサポートセンター 出版社: 株式会社ディスコ</p>	

授業科目名 (副題)	教育学 (赤ちゃんを学ぼう)		
担当者	平野 直美、永井 久美子、桐原 美恵子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 女性はお母さんになりうる性です。子どもを生み育てるとき、赤ちゃんってふしぎ！子どもってどんなことを考えているの？いろいろな疑問が生まれてきます。子どもを教育するには子どもの心を理解することがとても大切ですが、最近はお母さんが大人になりきれていないお母さんがわが子を虐待するなど子育てに大きな問題がでてきています。愛で子どもを育てるお母さんになれるように、子どもの心理や母子のふれあいを科学的に考えてくことがこの講義のねらいです。子どもの発達を脳科学の側面から科学的視野に立って学んでいきます。次に親になっていくことを視点に子育てを取り巻く課題を考えていきます。さらに子どもの発達のよりよい援助を、子どもを取り巻く環境や子どもの生活、遊びと表現、日本の伝統文化を通して学びます。</p> <p>[到達目標] ①将来を担う子ども達を愛情豊かに育てていくには何が大切か、どのようにすればよいのかを深く理解することができるようになる。 ②幼児教育に関する幅広い知識や多角的思考力および柔軟で創造性に富んだ思考力を身に付けることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各担当教員が講義中に示す参考図書や参考資料を各自で調べて自主学習を行ってください。また各担当教員が提示する課題作成も行ってください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(10%)、各担当教員の指示する提出物(90%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 幼児教育を広い視野から考えていく力を身に付けてください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育学 (赤ちゃんを学ぼう)
担当者	平野 直美、永井 久美子、桐原 美恵子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの発達を脳科学から考えよう <ol style="list-style-type: none"> 1. 赤ちゃん学とは何か(平野) 2. 赤ちゃんの脳では何が起きているの?(平野) 3. 子どもの脳の発達と臨界期(平野) 4. 脳と心の関係(平野) 5. 赤ちゃんの脳の発達に大切なこと(平野) 2) 親になっていくということ <ol style="list-style-type: none"> 6. 親になること(永井) 7. 親を理解すること—家族の変遷(永井) 8. 親になることのスタートとしての子育て—理論 (永井) 9. 親になることのスタートとしての子育て—実際 (永井) 10. 子育てを取り巻く今後の課題 (永井) 3) 子どもの発達のよりよい援助を考えよう <ol style="list-style-type: none"> 11. 子どもと環境(桐原) 12. 子どもの生活(桐原) 13. 子どもと遊び(桐原) 14. 子どもの表現(桐原) 15. 子どもと日本の伝統文化(桐原) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(10%)、各担当教員の指示する提出物(90%)で評価します。</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(10%)、各担当教員の指示する提出物(90%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 資料としてハンドアウトを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 講義中に紹介します。</p>	

授業科目名 (副題)	芸術表現学		
担当者	川村 高弘、山内 有香子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日本および世界の様々な音楽や美術といった芸術表現について、様々な音源や映像を鑑賞し、多様な視点から理解を深めていきます。また、芸術表現の歴史を理解し、芸術家の人物像・文化的背景・芸術構造などについても学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①芸術表現の歴史について理解することができる。 ②現代社会の中で必要な美的感覚と感性を高めることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業中に紹介した作品については、図書館等を利用しながら復習し、作品の内容についての理解を深めてください。また、講義内容についても復習をし、自己課題について探求してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、レポート・課題・作品等の提出物(20%)、小テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>自己課題をもって意欲的に授業に参加してください。</p>			

授業科目名 (副題)	芸術表現学
担当者	川村 高弘、山内 有香子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術表現とは何か(川村) 2. 芸術表現の意義(川村) 3. 現代美術を理解するための基礎知識①(色彩)(川村) 4. 現代美術を理解するための基礎知識②(構図・構成美)(川村) 5. 現代美術を理解するための基礎知識③(彫刻)(川村) 6. 書の歴史的変遷(山内) 7. 書の実践(山内) 8. 中世の芸術表現とルネサンスの芸術表現(川村) 9. バロックの芸術表現と18世紀の芸術表現(川村) 10. 古典主義とロマン主義の芸術表現(川村) 11. リアリズムの芸術表現(川村) 12. 形式と象徴の芸術表現(川村) 13. 抽象の始まりと芸術表現(川村) 14. 近現代の芸術表現(川村) 15. 芸術表現における課題(川村) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、レポート・課題・作品等の提出物(20%)、小テスト(60%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>必要に応じてプリント資料を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『はじめての音楽史』 著者名: 片桐功・須貝静直ら(編) 出版社: 音楽之友社 (4-276-11010-6)</p> <p>『西洋美術史』 著者名: 高階秀爾(監修) 出版社: 美術出版社 (4-568-40030-9)</p> <p>『日本美術史』 著者名: 辻惟雄(監修) 出版社: 美術出版社 (4-568-40034-1)</p>	

授業科目名 (副題)	健康・生活支援指導論実習		
担当者	賀屋 光晴		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] スポーツ実践を通してスポーツの楽しさを体感するとともに、運動習慣を身につけるための基礎を身につける。また、障害者スポーツなど様々なスポーツを体験することでスポーツの持つ奥深さや多様性を知る。さらに、身体表現(創作ダンス)の実践などにより、表現力を身につける。</p> <p>[到達目標] (1) スポーツに関する幅広い知識と技術が習得できる。 (2) 健康づくりと運動との関係に関する知識を身につけることができる。 (3) 状況や対象に合わせた行動をとることができる。 (4) 状況に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。 (5) 自分たちの考えを周囲に伝えることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前後にウォーミングアップ、クールダウンを充分に行なう。 ストレッチを毎日5分程度行なう。 10分程度の運動・活発な身体活動を週3回程度行なう。 日々の運動を記録し、定期的に振り返りを行なう。</p> <p>[成績評価方法] (1) 授業に関連したレポートを実施する。 (2) 参加態度(35%)、協調性(25%)、習熟度(20%)、レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 必要に応じて個別に対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] (1) 指示された場所で運動服に着替え、また体育館内では必ず体育館シューズを着用すること(服装不備の場合は授業に参加できない)。 (2) 更衣をすませ、兵庫医療大学G棟アリーナ2階に集合する。 (3) ピアス、ネックレスなどの装飾品は身につけない。 (4) その他、必要な注意事項に関しては随時指示を与える。(授業場所の変更等)</p>			

授業科目名 (副題)	健康・生活支援指導論実習
担当者	賀屋 光晴
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、スポーツ実践(身体表現 創作) 2. スポーツ実践(身体表現 創作) 3. スポーツ実践(身体表現 創作) 4. スポーツ実践と評価法(身体表現の発表(実践)と評価) 5. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング など) 6. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 7. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 8. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング など) 9. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 10. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 11. 体力の測定と評価 12. 体力の測定と評価 13. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング など) 14. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 15. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)、まとめ <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法:参加態度等、課題レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>新版 生活健康科学 著者名:小田切陽一、小山勝弘、石原逸子 共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3)</p> <p>運動処方指針:運動負荷試験と運動プログラム(原書第8版) 著者名:編:アメリカスポーツ医学会、日本体力医学会 出版社:南江堂 (978-4-524-26216-8)</p> <p>運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで 著者名:小山勝弘、安藤大輔 編著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0687-9)</p> <p>健康・スポーツ科学講義 第2版 著者名:出村慎一監修 出版社:杏林書院 (978-4-7644-1125-8)</p>	

授業科目名 (副題)	健康づくり・生活支援ワークショップ		
担当者	片田 千尋、石原 あや		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	この科目の担当者は、看護師・助産師として臨床経験をもつ教員と、LGBTのピアサポートや当事者運動を実践している実務経験のある教員である。そのため、実際の経験も交えて例を示すことで、深い学びや思考につなげる。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他	ヒューマンセクシュアリティと看護では、各自のPCもしくはスマートフォンからディベートの投票やディスカッションの意見の共有を行う。		
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>この講義は、「子育てと文化」と「ヒューマンセクシュアリティと看護」の2つから成る。</p> <p>(1)子育てと文化 子育てをめぐる社会状況・社会システムの変化、地域社会の変化等に伴う子ども観や育児観の変遷を追いながら、現代の子育ての問題や課題について考えていく。また子育て中の母親および乳幼児と関わる機会を設け、育児の実際とその一端を体験する。</p> <p>(2)ヒューマンセクシュアリティと看護 本科目では、セクシュアリティに関する基本的な知識を獲得し、様々な環境や立場、価値観をもつ人におけるセクシュアリティの多様性や課題について考える。また、一般的にセクシュアルマイノリティとされる人へのピアサポートや当事者運動を実践している特別講師から、性の多様性、LGBTのおかれる現状、当事者運動などについて講義を受け、セクシュアリティを基本的人権として捉え、その意味や課題について考える。上記の考えを通して、自己のセクシュアリティについて改めて考え、他者のセクシュアリティを尊重するための態度や支援について深く考える力を身につける。</p> <p>[到達目標]</p> <p>(1)子育ての営みに関係する事柄が列記できる。 (2)文化について具体的に述べることができる。 (3)現代の子育ての特徴が説明できる。 (4)現代の子育ての問題、課題、解決のための対策について考えることができる。 (5)子育てについて、自分の考えを述べることができる。 (6)課題のグループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。 (7)各ライフステージにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べるができる。 (8)様々な健康レベルにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べるができる。 (9)BASE KOBEのピアサポート活動や当事者運動を通して、HIVに関する知識を獲得し、セクシュアルヘルスについて考えることができる。 (10)セクシュアルマイノリティの当事者運動や社会の動向を通し、LGBTQに関する知識を獲得し、課題を考えることができる。 (11)様々なライフステージや健康レベルにある人のセクシュアリティに関する支援について議論し、自己の考えを述べるができる。 (12)各テーマについてのグループワークに参加し、他者の意見を聞くことで、自己の考えとの違いを理解し、より深く思考することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業前: グループワークのテーマに関する事前学習【4時間】 授業後: 深めたい点に関する追加学習【1時間】 全授業終了後: 各自が関心を持った問題や課題を1つ取り上げ、まとめのレポートを作成する【4時間】</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業への参加度(事前学習レポート、講義の感想レポート、グループディスカッションやディベートに関するレポート、ディベートへの参加度を重視)70%、最終レポート30% なお、本授業では定期試験は行わない。提出物の期限を遵守しない場合は減点対象とする。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>グループワークについては各授業内で、講義の感想やレポートについては最終授業のまとめでフィードバックを行い、より深い思考につなげる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>本授業はグループワークと学生の発表によって進行するため、事前学習なしでは参加できません。事前学習を行い、積極的に授業およびグループワークに参加してください。 また、日頃から新聞、テレビニュース、雑誌等で子育て、育児、虐待、暴力、人権、セクシュアルマイノリティ、セクシュアリティ、障害等に関連するトピックスに関心を払うように心がけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	健康づくり・生活支援ワークショップ
担当者	片田 千尋、石原 あや
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育てと文化ー授業ガイダンス(石原) 2. 子育ての実際(ディスカッション)(石原) 3. 子育ての実際(ディスカッション)(石原) 4. 現代の子育て事情(グループワーク)(石原) 5. 子育てにまつわる文化的慣習(グループワーク)(石原) 6. 母性愛神話・3歳児神話(グループワーク)(石原) 7. 海外の子育て(グループワーク)(石原) 8. 子育てについての悩み(グループワーク)(石原) 9. ヒューマンセクシュアリティと看護ー授業ガイダンス(片田) 10. セクシュアルマイノリティ(講義)(特別講師・片田) 11. ジェンダーとセクシュアリティ(ディベート)(片田) 12. セクシュアルヘルス(講義)(特別講師・片田) 13. ライフステージとセクシュアリティ(ディベート)(片田) 14. 障がいとセクシュアリティ(ディベート)(片田) 15. まとめ セクシュアリティの多様性の理解とその支援(グループワーク)(片田) 16. まとめ セクシュアリティに関する考えの統合 <p>*この回は、時間割変更しているので注意してください</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 授業への参加度(事前学習レポート、講義の感想レポート、グループディスカッションやディベートに関するレポート、ディベートへの参加度を重視)70%、最終レポート30% ・ なお、本授業では定期試験は行わない。提出物の期限を遵守しない場合は減点対象とする。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>適宜、各担当者が資料を配付する。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>随時紹介する。</p>	

授業科目名 (副題)	神戸学 (神戸の歴史と文化)		
担当者	重福 京子、十一 玲子、松浦 紀美恵、来海 素存、山内 有香子、道谷 卓		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	地元の企業経営者が、オムニバス形式により、神戸の歴史・文化について講義をします		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] この講義は、神戸の豊かな歴史と文化の営みを、多角的な視点から学習しようとするものである。歴史という点からは、古くから知られる神戸・須磨の地域的特性や明治以降の神戸の産業発展、そして中国とのつながりについて、また、文化面では、文学、服飾、料理、住居等多彩な分野に亘って神戸との関わりについて学ぶ。ふだん目や耳にする光景や言葉に込められた、奥深い歴史と文化を講義の中から感じとってほしい。それには、講義で紹介される関係文献に目を通すことはもちろん、興味をいただいた「場」にぜひ積極的に出かけ、肌で文化と歴史を感じてもらいたい。</p> <p>[到達目標] 神戸の歴史と文化を習得し、教養を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各担当教員からの指示のある図書や文献を次回までに読んでおくこと。復習を中心の4時間程度の前後学習をする。</p> <p>[成績評価方法] 授業の取り組み姿勢(40%)、提出物(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的に授業に参加してください。複数の先生が担当し、内容が多岐にわたるので、各時間の内容をまとめておくよう心がけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	神戸学 (神戸の歴史と文化)
担当者	重福 京子、十一 玲子、松浦 紀美恵、来海 素存、山内 有香子、道谷 卓
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、神戸について (重福京子) 2. 日本の洋家具発祥の地「神戸洋家具」とは (学外特別講師 永田泰資) 3. 生田神社・神楽生田舞の誕生から考える神戸の歴史 (学外特別講師 酒井康博) 4. 女性力 (学外特別講師 芹澤磨衣) 5. 神戸の発祥のファッションと行吉学園の「服飾教育」の変遷(十一 玲子) 6. 神戸の住文化: 古代から現代まで (来海 素存) 7. 神戸の下町文化 (松浦紀美恵) 8. 神戸の食文化 (松浦紀美恵) 9. 神戸と災害 (松浦紀美恵) 10. 神戸の歴史・序説 (道谷 卓) 11. 神戸の地名と伝説 (道谷 卓) 12. 平清盛、源平の争乱と神戸 (道谷 卓) 13. 「太平記」と神戸 (道谷 卓) 14. 嘉納治五郎と神戸 (道谷 卓) 15. まとめ (山内有香子) <p>担当者によって、取り上げるテーマが重複する場合もあるが、取り上げ方の視点、内容の詳細などが異なるので、あらかじめ了解しておくこと。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 授業中に随時紹介する。</p>	

授業科目名 (副題)	子どもと社会 (映画を通して学ぶ福祉や心理)
担当者	畠山 由佳子
実務経験のある教員による授業	
実務経験内容	
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	○ グループワーク ○
プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク
その他	
[ICTの活用]	
manaba	Moodle
その他	
<p>[授業全体の内容の概要] 映画という教材を通して、子どもや社会・心理にかかわる様々な問題について、自主的に調べ、討論します。広い視野と知識を持ち、想像力豊かに、社会や子どもの心理にかかわる様々な問題に対して自分の意見を持つことを学びます。</p> <p>[到達目標] ①問題提起されたテーマに関して、基礎的な知識を得るリサーチ力を培うことができる。 ②リサーチしたうえで、自分の考えをまとめ、最終発表の場で発表できる表現力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回の授業の後に映画のテーマに関する疑問点について自分で調べてきてもらい、その考えをまとめてもらうレポートを課します。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 各回授業でのグループディスカッション参加度(20%)、映画鑑賞後のワークシート・レポート(宿題)(60%) 最終プレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 各授業後にディスカッションについて講評します。ワークシート・レポートにはコメントをつけて返却します。プレゼンテーションについてもその場で講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] * 集中講義のため、3コマX5日間でおこないます。毎回の授業の基本的な構成は、前回のワークシートをもとに自主学習したレポートを基にしたグループディスカッション(30分)→映画のテーマ解説・映画鑑賞(約120分)→ワークシートの作成(20分)の流れで行います。毎回自分で調べてきてもらい、その考えをまとめてもらうレポートを課します。課題提出をきちんとこなせることが必須条件となります。 自宅での自己学習を基にしたディスカッションを行うため、授業に積極的に参加する意欲・自己学習が出席の必須条件です(参加しなければ、その場においても参加点が評価されません。)</p>	

授業科目名 (副題)	子どもと社会 (映画を通して学ぶ福祉や心理)
担当者	畠山 由佳子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、 2. 映画解説「食べることと生きること」命の授業一命の長さは誰が決めるのか?、映画鑑賞 3. 「食べることと生きること」ワークシート作成 4. 「食べることと生きること」グループディスカッション 5. 映画テーマ解説「多様性と共生」ー差別と区別、映画鑑賞 6. 「多様性と共生」ー差別と区別 ワークシート作成 7. 「多様性と共生」ー差別と区別 グループディスカッション 8. 映画テーマ解説「障害がある人とその家族」、映画鑑賞 9. 「家族とは何か」ワークシート作成 10. 映画テーマ解説「家族とは何か」、映画鑑賞 11. 「家族とは何か」、グループディスカッション 12. 映画テーマ解説「経済的格差」、映画鑑賞 13. 「経済的格差」ワークシート作成 14. 「経済的格差」グループディスカッション 15. 社会問題に関する課題意識(プレゼンテーション) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 映画鑑賞後のワークシート・レポート、最終プレゼンテーション</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 映画鑑賞後のワークシート・レポート、最終プレゼンテーション</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 授業中に適宜アナウンスします。</p>	

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)		
担当者	堀 桂太郎		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>Windowsの基本操作、ワープロソフト(日本語文書処理)、電子メールやウェブページの利用、情報セキュリティと情報倫理などを主なテーマとし、パソコン活用に必要な基本的知識・技術について演習等を通して学びます。また、情報社会に暮らす一員としての必要な知識についても学びます。ソフトウェアとしては、Windows 10、MS-Wordなどを使用する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p>			

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)
担当者	堀 桂太郎
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの基礎 2. アプリケーションソフトウェアの基礎 3. Windowsの基本操作 4. 文字の入力、タッチタイピング 5. ワードの基礎 6. ワードによる文章作成 7. ワードによる文章編集 8. ワードによる画像データの扱い 9. ワードによる作図 10.ワードによる文書作成演習 11.ワードによるレポート作成 12.情報セキュリティと情報倫理の基礎 13.インターネットの基礎 14.インターネットを用いた情報検索 15.電子メールの基礎 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社:実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)		
担当者	平田 真弓		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>Windowsの基本操作、ワープロソフト(日本語文書処理)、電子メールやウェブページの利用、情報セキュリティと情報倫理などを主なテーマとし、パソコン活用に必要な基本的知識・技術について演習等を通して学びます。また、情報社会に暮らす一員としての必要な知識についても学びます。ソフトウェアとしては、Windows 10、MS-Wordなどを使用する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p>			

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)
担当者	平田 真弓
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの基礎 2. アプリケーションソフトウェアの基礎 3. Windowsの基本操作 4. 文字の入力、タッチタイピング 5. ワードの基礎 6. ワードによる文章作成 7. ワードによる文章編集 8. ワードによる画像データの扱い 9. ワードによる作図 10.ワードによる文書作成演習 11.ワードによるレポート作成 12.情報セキュリティと情報倫理の基礎 13.インターネットの基礎 14.インターネットを用いた情報検索 15.電子メールの基礎 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)		
担当者	平田 真弓		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>Windowsの基本操作、ワープロソフト(日本語文書処理)、電子メールやウェブページの利用、情報セキュリティと情報倫理などを主なテーマとし、パソコン活用に必要な基本的知識・技術について演習等を通して学びます。また、情報社会に暮らす一員としての必要な知識についても学びます。ソフトウェアとしては、Windows 10、MS-Wordなどを使用する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p>			

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)
担当者	平田 真弓
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの基礎 2. アプリケーションソフトウェアの基礎 3. Windowsの基本操作 4. 文字の入力、タッチタイピング 5. ワードの基礎 6. ワードによる文章作成 7. ワードによる文章編集 8. ワードによる画像データの扱い 9. ワードによる作図 10. ワードによる文書作成演習 11. ワードによるレポート作成 12. 情報セキュリティと情報倫理の基礎 13. インターネットの基礎 14. インターネットを用いた情報検索 15. 電子メールの基礎 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)		
担当者	平田 真弓		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>Windowsの基本操作、ワープロソフト(日本語文書処理)、電子メールやウェブページの利用、情報セキュリティと情報倫理などを主なテーマとし、パソコン活用に必要な基本的知識・技術について演習等を通して学びます。また、情報社会に暮らす一員としての必要な知識についても学びます。ソフトウェアとしては、Windows 10、MS-Wordなどを使用する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p>			

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)
担当者	平田 真弓
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの基礎 2. アプリケーションソフトウェアの基礎 3. Windowsの基本操作 4. 文字の入力、タッチタイピング 5. ワードの基礎 6. ワードによる文章作成 7. ワードによる文章編集 8. ワードによる画像データの扱い 9. ワードによる作図 10.ワードによる文書作成演習 11.ワードによるレポート作成 12.情報セキュリティと情報倫理の基礎 13.インターネットの基礎 14.インターネットを用いた情報検索 15.電子メールの基礎 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)		
担当者	清光 英成		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] Windowsの基本操作、ワープロソフト(日本語文書処理)、電子メールやウェブページの利用、情報セキュリティと情報倫理などを主なテーマとし、パソコン活用に必要な基本的知識・技術について演習等を通して学びます。また、情報社会に暮らす一員としての必要な知識についても学びます。ソフトウェアとしては、Windows 10、MS-Wordなどを使用する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p>			

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)
担当者	清光 英成
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの基礎 2. アプリケーションソフトウェアの基礎 3. Windowsの基本操作 4. 文字の入力、タッチタイピング 5. ワードの基礎 6. ワードによる文章作成 7. ワードによる文章編集 8. ワードによる画像データの扱い 9. ワードによる作図 10. ワードによる文書作成演習 11. ワードによるレポート作成 12. 情報セキュリティと情報倫理の基礎 13. インターネットの基礎 14. インターネットを用いた情報検索 15. 電子メールの基礎 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)		
担当者	平田 真弓		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>Windowsの基本操作、ワープロソフト(日本語文書処理)、電子メールやウェブページの利用、情報セキュリティと情報倫理などを主なテーマとし、パソコン活用に必要な基本的知識・技術について演習等を通して学びます。また、情報社会に暮らす一員としての必要な知識についても学びます。ソフトウェアとしては、Windows 10、MS-Wordなどを使用する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p>			

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)
担当者	平田 真弓
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの基礎 2. アプリケーションソフトウェアの基礎 3. Windowsの基本操作 4. 文字の入力、タッチタイピング 5. ワードの基礎 6. ワードによる文章作成 7. ワードによる文章編集 8. ワードによる画像データの扱い 9. ワードによる作図 10. ワードによる文書作成演習 11. ワードによるレポート作成 12. 情報セキュリティと情報倫理の基礎 13. インターネットの基礎 14. インターネットを用いた情報検索 15. 電子メールの基礎 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)		
担当者	堀 桂太郎		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] Windowsの基本操作、ワープロソフト(日本語文書処理)、電子メールやウェブページの利用、情報セキュリティと情報倫理などを主なテーマとし、パソコン活用に必要な基本的知識・技術について演習等を通して学びます。また、情報社会に暮らす一員としての必要な知識についても学びます。ソフトウェアとしては、Windows 10、MS-Wordなどを使用する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p>			

授業科目名 (副題)	情報リテラシー(コンピュータの活用)
担当者	堀 桂太郎
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの基礎 2. アプリケーションソフトウェアの基礎 3. Windowsの基本操作 4. 文字の入力、タッチタイピング 5. ワードの基礎 6. ワードによる文章作成 7. ワードによる文章編集 8. ワードによる画像データの扱い 9. ワードによる作図 10. ワードによる文書作成演習 11. ワードによるレポート作成 12. 情報セキュリティと情報倫理の基礎 13. インターネットの基礎 14. インターネットを用いた情報検索 15. 電子メールの基礎 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	食事学 (女性のためのかしこい食事学)
担当者	竹内 美貴、西 奈保
実務経験のある教員による授業	
実務経験内容	
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	
[ICTの活用]	
manaba	Moodle
その他	
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>思春期の女性にはしばしば痩せに憧れ、間違っただイエット等を実行している人を見受けま す。誤ったダイエツトは貧血や摂食障害をまねく可能性が高く、さらに将来、妊娠や出産の時、母 子共にいろいろな危険を及ぼす可能性も考えられます。そこで、まず、栄養や食事についての基 礎を学び、理想的な食事がどのようなものかを理解し、正しい食生活が実行できるように考察し ます。ダイエツトの方法を学ぶ内容ではありません。</p> <p>またこの時期から適正な体重を維持し、バランスのとれた食事を心がけることは、将来、生活 習慣病の発症の予防になります。生活習慣病を理解し、予防する食べ方を学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①「食べる」ということの根本的な意味が理解できる。 ②日常の食事作りや食材の購入、外食時に、授業で学んだ知識を実践できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞や雑誌等で食生活に関連した内容があれば目を通し、質問を考えておくなどの事前準備 をしておいてください。担当教員から課題が出されることもあります。授業内容を復習し、図書館 等で授業内容に関連した必要な情報を調べるなど事後学習も行ってください。毎回、授業内で提 出物があります。復習をしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。 2名の担当者の評価を平均して最終の評価とします。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポート等の提出物を点検し、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>積極的な受講を望みます。 受講人数は40名までとします。多い場合は抽選により決定します。</p>	

授業科目名 (副題)	食事学 (女性のためのかしこい食事学)
担当者	竹内 美貴、西 奈保
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の説明 ダイエットの落とし穴 (西) 2. 若い女性に必要な栄養素 (西) 3. バランスのよい食事とは (西) 4. 簡単レシピの紹介 ①主菜 (西) 5. 簡単レシピの紹介 ②副菜 (西) 6. 中食を利用するときのポイント (西) 7. 外食を利用するときのポイント (西) 8. 体に入った食物、体の中でどうなるのか・課題説明 (竹内) 9. 体に入った食物の栄養について (竹内) 10. 毎日食べている食材の産地を知る (竹内) 11. 日本人の食生活の現状について (竹内) 12. 日本人の理想の食生活とは (竹内) 13. 何をどのくらい食べればよいのか (竹内) 14. かしこく食べましょう (竹内) 15. 野菜を長持ちさせる方法—貯蔵方法・加工方法について、課題提出 (竹内) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、レポート</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] プリント配布</p> <p>[参考文献(ISBN)] プリント配布</p>	

授業科目名 (副題)	食品科学	(元気で健康な生活を送るために)	
担当者	赤桐 里美、中村 智英子、平田 庸子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] この授業では、多様な食品の中から賢く食品の表示を読み取り選択する方法や、栄養と健康について幅広く学び、豊かな健康な生活を送るために役立つ事柄を学びます。</p> <p>[到達目標] ①食生活と健康について、幅広い知識を身に付ける。 ②日常生活において、食品の正しい情報を理解し選択することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 課題レポート(70%)、受講態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 遅刻・欠席をすると授業についていけなくなりますので注意してください。</p>			

授業科目名 (副題)	食品科学 (元気で健康な生活を送るために)
担当者	赤桐 里美、中村 智英子、平田 庸子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・食品と人体の関係(赤桐) 2. 食品の選び方Ⅰ(食品表示の見方)(平田) 3. 食品の選び方Ⅱ(食品保存)(平田) 4. 食品の選び方Ⅲ(魚介類と肉類)(平田) 5. 食品の成分と健康Ⅰ(赤い野菜の力)(平田) 6. 食品の成分と健康Ⅱ(緑の野菜の力)(平田) 7. 食中毒原因物質(中村) 8. 調理時の衛生管理(中村) 9. 食品汚染物質(中村) 10. 食品添加物(中村) 11. 食品の遺伝子組み換え(中村) 12. 人体の不思議 恒常性(赤桐) 13. 疲労・ストレス・睡眠(赤桐) 14. 老化・加齢・遺伝(赤桐) 15. 女性の健康(性周期体質改善)(赤桐) <p>* 順序は変更になる場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: レポート、受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 資料プリント</p>	

授業科目名 (副題)	心理学 I		
担当者	下司 実奈		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 心理学 I では、生活の中に点在する心理学的知見をひとつずつ学びながらそれらが点から線へ面へとつながるよう、理論とワークショップとを組み合わせることで学んでいく。臨床心理士としての経験を踏まえ、クライアントとご家族から学んだことを活かして講義します。</p> <p>[到達目標] 自分の日常生活における心理学を科学的視点で捉えることと、自分以外の人への知覚・感覚に対する想像力を身につけていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 様々な生活場面において、自分と人を理解し、肯定的視点を育ててほしい。各回、予習復習合わせて4時間程度、例えば新聞を毎日、1日30分以上かけて読み、その内容について2つ以上の意見・視点が存在することに気付く。</p> <p>[成績評価方法] 受講態度(30%)・レポート(10%)・試験(60%)を総合して評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質問は随時、授業中もしくはmanaba上で受け付け、授業中にフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p>			

授業科目名 (副題)	心理学 I
担当者	下司 実奈
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.心理学とは 2.脳と発達 3.記憶 4.知覚 5.個人と集団 6.ワークショップ「私は・・・」 7.ワークショップ「自尊感情」 8.ワークショップ「アサーション」 9.ストレス 10.モーニングワーク 11.DV 12.虐待 13.LGBT 14.発達障害 15.まとめ <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 講態度(30%)・レポート(10%)・試験(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	数学 I		
担当者	梅田 亨		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 小学校の算数や中学以降の数学で学んだ事柄と、数学にまつわる歴史や文化の話題も取り扱い、あらためて日常的な事象と数学の関わりを学び、数学的思考や論理的思考力を培う。</p> <p>[到達目標] 数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的思考力を高めるなかで数学の楽しさを体感することができる。いろいろな計算をとおして、数学的な事実を予測し、できれば実証したい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義内容の復習(練習問題を解く、用語・定義の確認など)は積極的に行ってください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に行う演習への取り組み(30%)、理解度確認テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 演習後、解説をし理解を深める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的に授業に参加して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	数学 I
担当者	梅田 亨
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2^nの表を見て考える。そこにどのような法則が見つけれられるか。 2. 自然数、N進法 3. 数を広げる(ゼロ、負の数、整数、有理数)、指数法則とその拡張 4. 整数の合同、割り算の意味 5. 二項定理、パスカルの三角形 6. 周期性の解明 7. 周期性とフェルマの小定理 8. フェルマの小定理の拡張 9. ここまでのまとめ 10. 対数と数の近似 11. 大体の世界 12. 対数からみえる、さまざまな現象、音階、放射能、小数の由来 13. 一般二項定理とその応用、近似計算 14. ここまでのまとめ 15. 再確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 授業中に行う演習への取り組み(30%)、理解度確認テスト(70%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリントを配布</p> <p>[参考文献(ISBN)] 適宜紹介</p>	

授業科目名 (副題)	数学Ⅱ		
担当者	梅田 亨		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>まず、確実な知識を理解する方法(論理)を学びたい。しかし、データが不十分であるなどの場合の判断のしかた(確率的考え)を通じて、不確実ではあるが、どれほどの確実さが得られるかの数値的な指標を得る方法を知りたい。その一方、論理的には確実であっても、計算が膨大で、決定的なところまで至ることができない世界もある。我々の知識の階層を、数学の立場から知ることによって、現実の世界をどのように把握していくか。現在は AI の進歩によって、かなりのことができるようになってきているが、信頼できるのか。できれば、そのようなところまで突っ込んでいきたい。可能であれば、演習等基礎的な考え方とその方法を学ぶ。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①データの適切な処理方法やデータの見方、また、データから導かれた情報を正確に読み、正しく理解することができる。</p> <p>②データを有効に活用するための手法を身につけ、数学的論拠に基づいて判断することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>講義内容の復習(練習問題を解く、用語・定義の確認など)は積極的に行ってください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業中に行う演習への取り組み(30%)、理解度確認テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>演習後、解説をし理解を深める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>積極的に授業に参加して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	数学Ⅱ
担当者	梅田 亨
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理について 2. 論理(続き) 3. 集合 4. 順列と組合せ 5. 確率と順列組合せ 6. 確率の意味 7. 偏差値の意味 8. 期待値1 9. 期待値2 10. パスカルの三角形 11. 二項分布 12. 正規分布 13. 検定1(統計的判断) 14. 検定2(推定) 15. まとめとテスト <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 授業中に行う演習への取り組み(30%)、理解度確認テスト(70%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリントを配付</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『数学ガールの秘密ノート／確率の冒険』 著者名: 結城 浩著 出版社: SBクリエイティブ (978-4815606039) 高等学校の確率・統計 著者名: 黒田隆郎ほか 出版社: ちくま学芸文庫 (978-4-480-09393-6)</p>	

授業科目名 (副題)	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)	
担当者	林 孝三	
実務経験のある教員による授業	○	
実務経験内容	グラフィックデザイナーの経験有する教員が絵本制作について指導します。	
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)	反転授業	
ディスカッション・ディベート	グループワーク	○
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク	
その他		
[ICTの活用]		
manaba	Moodle	
その他	学内共有フォルダ	
<p>[授業全体の内容の概要] コンピュータを使ってオリジナル絵本を制作します。その絵本を読む対象を決め、そしてストーリーを考えながら制作します。絵をコンピュータ上に描きそれを画像と認識して、いろいろな処理を行い、よりよい結果を導きます。 基本的にAdobe Photoshopで絵を描き、その画像をAdobe Illustratorに移動し編集をします。そしてAdobe Indesignで本のデータにします。3種類のアプリケーションを使うことにより、グラフィックの基本を学べます。</p> <p>[到達目標] 自分の思い描いているイメージをコンピュータ上で具現化できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次回の授業までに同じテーマで別の作品を制作しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 作品の完成度(70%)と授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 学内共有フォルダで各作品とその作品に対する評価コメントを公開します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 絵を描くことが苦手、又は嫌いという人の多くは、失敗が怖いという気持ちがはたらいて萎縮し、自分は絵が下手だと思い込んでいるのではないのでしょうか。コンピュータはその点についてはたいへん便利な道具です。失敗を恐れることはありません。自由に描いて失敗すれば簡単に元に戻すことができるのです。少しずつ仕上げていけばよいのです。又、絵を描くことは好きなのだがコンピュータは苦手という人も、文字入力や表計算だけがコンピュータの勉強ではありません。コンピュータ入門もペイントソフトから入門するという方法もあるのです。指導方法の関係で25名を上限とします。</p>		

授業科目名 (副題)	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)
担当者	林 孝三
<p>[授業計画]</p> <p>【遠隔授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション。ペイントソフトの種類と説明 2.アドビ・フォトショップの使用方の説明 3.アドビ・フォトショップの実践 選択ツールの使い方 4.アドビ・フォトショップの実践 ペンツールの種類とその使用結果 5.アドビ・フォトショップの実践 レイヤーの機能と効用 6.ストーリーの完成 7.アドビ・フォトショップの実践 レイヤーの機能と効用 8.アドビ・フォトショップの実践 描画と画像処理1 色調補正 9.アドビ・フォトショップの実践 描画と画像処理2 フィルターの実践 10.アドビ・フォトショップの実践 レイアウトとトリミング 11.アドビ・フォトショップの実践 クリッピングパスの実践 12.アドビ・イラストレーターの実践 フォトショップのデータをイラストレーターへ移動 13.アドビ・インデザインの実践 製本ソフトの実践 14.完成・印刷 15.絵本の内容とアプリケーションの理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法： 作品の完成度(70%)と授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)	
担当者	林 孝三	
実務経験のある教員による授業	○	
実務経験内容	グラフィックデザイナーの経験有する教員が絵本制作について指導します。	
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)	反転授業	
ディスカッション・ディベート	グループワーク	○
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク	
その他		
[ICTの活用]		
manaba	Moodle	
その他	学内共用フォルダ	
<p>[授業全体の内容の概要] コンピュータを使ってオリジナル絵本を制作します。その絵本を読む対象を決め、そしてストーリーを考えながら制作します。絵をコンピュータ上に描きそれを画像と認識して、いろいろな処理を行い、よりよい結果を導きます。 基本的にAdobe Photoshopで絵を描き、その画像をAdobe Illustratorに移動し編集をします。そしてAdobe Indesignで本のデータにします。3種類のアプリケーションを使うことにより、グラフィックの基本を学べます。</p> <p>[到達目標] 自分の思い描いているイメージをコンピュータ上で具現化できるようになる</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次回の授業までに同じテーマで別の作品を制作しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 作品の完成度(70%)と勉学態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 学内共有フォルダで各作品とその作品に対する評価コメントを公開します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 絵を描くことが苦手、又は嫌いという人の多くは、失敗が怖いという気持ちがはたらいて萎縮し、自分は絵が下手だと思い込んでいるのではないのでしょうか。コンピュータはその点についてはたいへん便利な道具です。失敗を恐れることはありません。自由に描いて失敗すれば簡単に元に戻すことができるのです。少しずつ仕上げていけばよいのです。又、絵を描くことは好きなのだがコンピュータは苦手という人も、文字入力や表計算だけがコンピュータの勉強ではありません。コンピュータ入門もペイントソフトから入門するという方法もあるのです。指導方法の関係で25名を上限とします。</p>		

授業科目名 (副題)	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)
担当者	林 孝三
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション。ペイントソフトの種類と説明 2.アドビ・フォトショップの使用方の説明 3.アドビ・フォトショップの実践 選択ツールの使い方 4.アドビ・フォトショップの実践 ペンツールの種類とその使用結果 5.アドビ・フォトショップの実践 レイヤーの機能と効用 6.ストーリーの完成 7.アドビ・フォトショップの実践 レイヤーの機能と効用 8.アドビ・フォトショップの実践 描画と画像処理1 色調補正 9.アドビ・フォトショップの実践 描画と画像処理2 フィルターの実践 10.アドビ・フォトショップの実践 レイアウトとトリミング 11.アドビ・フォトショップの実践 クリッピングパスの実践 12.アドビ・イラストレーターの実践 フォトショップのデータをイラストレーターへ移動 13.アドビ・インデザインの実践 製本ソフトの実践 14.完成・印刷 15.絵本の内容とアプリケーションの理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 作品をデジタル化することによって、編集の可能性が高まることを理解でき、表現の多様性がどのように出来ているかを評価する。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	体育講義		
担当者	矢野 真理		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 現代社会においては、健康・体力づくりの重要性が指摘されている。この授業では、生涯にわたって健康を維持・増進し、健康で文化的な人間らしい生活を営むための基礎的な事柄を中心に講義する。</p> <p>[到達目標] ①生涯にわたり継続的に運動を行うことの重要性を理解し、自らの生活の中に取り入れることができる。 ②これらの実践に伴う知識や態度を養うことができる。 ③積極的にグループワークに参加し、各自の価値観、気づき等についての振り返りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自らの運動経験やクラブ活動経験を事前に整理し、受講してください。授業後は、健康増進や体力の向上を目指し、自ら運動に取り組むようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] レポート課題提出(内容理解/論理構成/正確性)50%、積極的に学習に取り組む態度・参加度50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。 ・レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・携帯電話の使用は認めません。 ・他学生の聴講に影響を与える私語は慎んでください。 ・積極的な態度で授業に参加し、自らの健康問題として取り組んでください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育講義
担当者	矢野 真理
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義の概要について 2. 健康の概念 WHOの定義、ウエルネスの概念 3. 子どもの発育発達と運動 4. 高齢者の健康 高齢者の健康の現状 5. 体力と健康 からだと構造と機能について 6. 休養・こころと健康 睡眠、ストレスと健康の関係 7. 栄養と健康 栄養、食生活と健康の関係 8. 運動と健康 有酸素運動と無酸素運動 9. 生活習慣病について 10. ストレッチング 効果と実践方法 11. 有酸素運動 効果と実践方法 12. 喫煙・アルコールと健康 13. 妊娠と出産 女性のからだ、避妊 14. スポーツ外傷と応急処置 15. 理解度確認テスト・解説 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法:理解度確認テスト、レポート、授業に取り組む姿勢</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	体育講義		
担当者	矢野 真理		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 現代社会においては、健康・体力づくりの重要性が指摘されている。この授業では、生涯にわたって健康を維持・増進し、健康で文化的な人間らしい生活を営むための基礎的な事柄を中心に講義する。</p> <p>[到達目標] ①生涯にわたり継続的に運動を行うことの重要性を理解し、自らの生活の中に取り入れることができる。 ②これらの実践に伴う知識や態度を養うことができる。 ③積極的にグループワークに参加し、各自の価値観、気づき等についての振り返りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自らの運動経験やクラブ活動経験を事前に整理し、受講してください。授業後は、健康増進や体力の向上を目指し、自ら運動に取り組むようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] レポート課題提出(内容理解/論理構成/正確性)50%、積極的に学習に取り組む態度・参加度50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。 ・レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・携帯電話の使用は認めません。 ・他学生の聴講に影響を与える私語は慎んでください。 ・積極的な態度で授業に参加し、自らの健康問題として取り組んでください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育講義
担当者	矢野 真理
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義の概要について 2. 健康の概念 WHOの定義、ウエルネスの概念 3. 子どもの発育発達と運動 4. 高齢者の健康 高齢者の健康の現状 5. 体力と健康 からだと構造と機能について 6. 休養・こころと健康 睡眠、ストレスと健康の関係 7. 栄養と健康 栄養、食生活と健康の関係 8. 運動と健康 有酸素運動と無酸素運動 9. 生活習慣病について 10. ストレッチング 効果と実践方法 11. 有酸素運動 効果と実践方法 12. 喫煙・アルコールと健康 13. 妊娠と出産 女性のからだ、避妊 14. スポーツ外傷と応急処置 15. 理解度確認テスト・解説 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 理解度確認テスト、レポート、授業に取り組む姿勢</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	体育実技		
担当者	野之上 操		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 実技種目は、テニス、ゴルフ、ソフトボール、バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール、ダンス、体カトレーニング、キンボール等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。</p> <p>[到達目標] ①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(50%) 実技レポート(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・スポーツウエア、スポーツシューズを着用してください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	野之上 操
<p>[授業計画]</p> <p>【遠隔授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 2. ネット型ゲームの実践 ゲームの特性とラケットと持ち方 3. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 4. ネット型ゲームの実践 打球の種類を理解 5. ネット型ゲームの実践 ゲームのルール 6. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 7. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 8. ネット型ゲームの実践 課題練習とゲーム 9. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 10. ネット型ゲームの実践 実技テスト 11. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 12. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 13. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 14. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 15. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 積極的に授業に取り組む態度・参加度50%、実技テスト50%で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『スポーツルール2019』 著者名:大修館編集 出版社:大修館書店 (978-446926-8614)</p>	

授業科目名 (副題)	体育実技		
担当者	竹谷 満		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 実技種目は、テニス、ゴルフ、ソフトボール、バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール、ダンス、体カトレーニング、キンボール等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。</p> <p>[到達目標] ①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(50%) 実技テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・スポーツウエア、スポーツシューズを着用してください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	竹谷 満
<p>[授業計画]</p> <p>【遠隔授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 2. ネット型ゲームの実践 ゲームの特性とラケットと持ち方 3. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 4. ネット型ゲームの実践 打球の種類を理解 5. ネット型ゲームの実践 ゲームのルール 6. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 7. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 8. ネット型ゲームの実践 課題練習とゲーム 9. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 10. ネット型ゲームの実践 実技テスト 11. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 12. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 13. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 14. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 15. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 積極的に授業に取り組む態度・参加度50%、実技テスト50%で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『スポーツルール2019』 著者名:大修館編集 出版社:大修館書店 (978-446926-8614)</p>	

授業科目名 (副題)	体育実技		
担当者	野之上 操		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 実技種目は、テニス、ゴルフ、ソフトボール、バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール、ダンス、体カトレーニング、キンボール等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。</p> <p>[到達目標] ①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(50%) 実技テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・スポーツウエア、スポーツシューズを着用してください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	野之上 操
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 2. ネット型ゲームの実践 ゲームの特性とラケットと持ち方 3. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 4. ネット型ゲームの実践 打球の種類を理解 5. ネット型ゲームの実践 ゲームのルール 6. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 7. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 8. ネット型ゲームの実践 課題練習とゲーム 9. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 10. ネット型ゲームの実践 実技テスト 11. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 12. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 13. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 14. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 15. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 積極的に授業に取り組む態度・参加度50%、実技テスト50%で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『スポーツルール2019』 著者名:大修館編集 出版社:大修館書店 (978-446926-8614)</p>	

授業科目名 (副題)	体育実技		
担当者	矢野 真理		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 実技種目は、テニス、ゴルフ、ソフトボール、バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール、ダンス、体カトレーニング、キンボール等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。</p> <p>[到達目標] ①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[成績評価方法] 積極的に授業に取り組む態度・参加度50%、実技テスト50%で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・スポーツウエア、スポーツシューズを着用してください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	矢野 真理
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 2. ネット型ゲームの実践 ゲームの特性とラケットと持ち方 3. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 4. ネット型ゲームの実践 打球の種類を理解 5. ネット型ゲームの実践 ゲームのルール 6. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 7. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 8. ネット型ゲームの実践 課題練習とゲーム 9. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 10. ネット型ゲームの実践 実技テスト 11. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 12. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 13. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 14. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 15. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 積極的に授業に取り組む態度・参加度50%、実技テスト50%で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『スポーツルール2020』 著者名:大修館編集 出版社:大修館書店 (978-446926-8904)</p>	

授業科目名 (副題)	体育実技		
担当者	矢野 真理		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 実技種目は、テニス、ゴルフ、ソフトボール、バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール、ダンス、体カトレーニング、キンボール等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。</p> <p>[到達目標] ①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[成績評価方法] 積極的に授業に取り組む態度・参加度50%、実技テスト50%で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・スポーツウエア、スポーツシューズを着用してください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	矢野 真理
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 2. ネット型ゲームの実践 ゲームの特性とラケットと持ち方 3. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 4. ネット型ゲームの実践 打球の種類を理解 5. ネット型ゲームの実践 ゲームのルール 6. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 7. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 8. ネット型ゲームの実践 課題練習とゲーム 9. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 10. ネット型ゲームの実践 実技テスト 11. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 12. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 13. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 14. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 15. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 積極的に授業に取り組む態度・参加度50%、実技テスト50%で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『スポーツルール2020』 著者名:大修館編集 出版社:大修館書店 (978-446926-8904)</p>	

授業科目名 (副題)	地域コミュニティ入門 (~新しいつながりと仕組みで構築する地域コミュニティ~)		
担当者	飛田 敦子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	中間支援NPOにてコミュニティ事業の立ち上げ支援や人材育成事業の実施など		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>少子高齢化、人口減少、税収減、非正規雇用の増加、格差の拡大など、現代社会は様々な課題を抱えています。行政や企業だけでは、それらの課題すべてを解決するのは難しい時代となってきました。そこで注目されているのが、NPOや地域コミュニティといった新たな機能です。高齢者、子ども、まちづくりなど、その分野は多岐にわたり、様々な事例が構築されています。また、それらの主体(地域コミュニティ、行政、企業など)がともに手を取り合って行動する「協働(きょうどう)」も、なくてはならない手法となってきました。</p> <p>2020年春以降、新型コロナウイルスの影響で、対面して多様な人間関係を構築するのが難しい状況が続いています。リアルな交流の機会が激減する中で、高齢者の認知および身体機能の低下、産後うつを抱える親の増加など、自粛や孤立による新たな社会課題も浮かび上がってきています。しかし一方で、「感染症による命のリスク」と「孤立による命のリスク」のバランスに苦慮しながらも、少しでも現状を打破しようとする挑戦も各地で生まれています。地域コミュニティの役割を再考するためにも、これらコロナ禍における取組事例も授業内で多数紹介します。また、様々な分野で活躍する実践者の方にもゲストスピーカーとしてご登壇いただき、現場での様々なチャレンジに触れながら、地域コミュニティの実態や役割、またその可能性について共に考えたいと思います。</p> <p>※担当教員はNPOや地域コミュニティをフィールドにした仕事に従事しており、「実務経験のある教員」です。</p> <p>① 学生、講師、ゲストスピーカーが皆で一緒に創る授業です。90分授業の前半を講義、後半をグループディスカッションやゲストスピーカーとの質疑応答等の参加型形式で行います。講義を聞いたり、板書したりするだけでなく、他人と議論することに重点を置き、「人と学び、人から学ぶ」授業を目指します。そのため、受身ではなく積極的な参加態度を求めます。</p> <p>② ゲストスピーカーの関係で授業スケジュールや内容が変更する場合があります。</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>① 地域コミュニティの抱える現代的課題の理解 ② 磨く力の構築 ③ コミュニケーション能力(話す力・聴く力・調整する力)の向上</p>			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>ディスカッション課題は事前に発表します。授業時間外にも積極的に調べ、考え、学ぶ姿勢を奨励します。</p>			
<p>[成績評価方法]</p> <p>授業ごとのコミュニケーションシート60%、ミニレポート20%、期末レポート20%</p>			
<p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>原則、課題提出の翌週に抜粋してフィードバック</p>			
<p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p>			
<p>[受講生への要望、その他]</p> <p>参加型授業ですので、学生の積極的な参加がないと授業がなりたちません。ぜひ前向きな姿勢で出席してください。</p>			

授業科目名 (副題)	地域コミュニティ入門	(~新しいつながりと仕組みで構築する地域コミュニティ~)
担当者	飛田 敦子	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. なぜ今、地域コミュニティなのか？1 3. なぜ今、地域コミュニティなのか？2 4. コロナ禍と地域コミュニティ 5. 地域コミュニティの現場～事例紹介①障害者と地域コミュニティ～ 6. 地域コミュニティの現場～事例紹介②中間支援と地域コミュニティ～ 7. 地域コミュニティの現場～事例紹介③子どもと地域コミュニティ～ 8. 地域コミュニティの現場～事例紹介④外国人と地域コミュニティ～ 9. 地域コミュニティの現場～事例紹介⑤まちあそびと地域コミュニティ～ 10. 産業と地域コミュニティ 11. 行政と地域コミュニティ 12. 多様な主体による「協働」の可能性 13. グループワーク1～私たち大学生が地域コミュニティでできること～ 14. グループワーク2～私たち大学生が地域コミュニティでできること～ 15. 発表・まとめ <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:授業ごとのコミュニケーションシート60%、ミニレポート20%、期末レポート20%</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>教科書なし。資料は都度パワーポイントのハンドアウトを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『人口減少社会のデザイン』 著者名:広井良典 出版社:東洋経済新報社 (4480065016)</p> <p>『つながりのコミュニティ～人と地域が「生きる」かたち～』 著者名:佐藤友美子・土井勉・平塚伸治著 出版社:岩波書店 (4000014048)</p> <p>『ソーシャルデザイン実践ガイド』 著者名:寛裕介 出版社:英治出版 (4862761496)</p> <p>『つながるカフェ～コミュニティの〈場〉をつくる方法～』 著者名:山納洋 出版社:学芸出版社 (4761513616)</p>		

授業科目名 (副題)	地域連携インターンシップ I		
担当者	前田 光子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>毎週定時に集合して行う座学ではなく、自主立案、実行、報告のインターンシップ科目です。将来、安全で楽しい社会を築くことのできる人材となるために、地域や社会の多大な情報の中から自分の個性に合った事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次へのステップのためにフィードバックをする、というPDCAサイクルを習得します。</p> <p>この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践的教育から構成される授業科目です。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度)</p> <p>②地域連携に参画して、地域の問題点を挙げる事ができる。(知識)</p> <p>③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度)</p> <p>④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>初回(4月10日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)のガイダンス後は、事前に計画した事業参加申告書に基づき、普段は活動します。期末の活動報告会(7月10日を予定)で、全ての内容を報告し、討議します。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。</p> <p>参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%) で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>活動報告会でのプレゼンテーションで、フロアとの間で質疑応答を行い、コメントをもらいます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>常日頃から周囲に目を向け、不都合な点はないか、どうすればもっと良くなるか、自分にできることは何かなど、観察し考える習慣を付けてください。</p> <p>活動ごとの記録作成を習慣付けてください。</p> <p>普段からの連絡、相談や報告を怠らないようにしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	地域連携インターンシップ I
担当者	前田 光子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ポーアイ4大学連携事業への参加 3. 市民救命士講習の受講 4. 市民救命士講習救急インストラクター活動 5. ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ ボランティア活動 6. 減災SCOP活動 7. DMAT研修運営補助ボランティアへの参加 8. 「禁煙キャンパス地区」を目指した禁煙支援活動への参加 9. リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸への参加 10. KOBEエイズフェスタへの参加 11. 公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講 12. その他、大学関連事業として認定する事業への参加 13. 学生からの提案事業(事前相談を要します) 14. 活動報告会 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。・ 参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%) で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	地域連携インターンシップⅡ		
担当者	前田 光子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 毎週定時に集合して行う座学ではなく、自主立案、実行、報告のインターンシップ科目です。 将来、安全で楽しい社会を築くことのできる人材となるために、地域や社会の多様な情報の中から自分の個性に合った事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次へのステップのためにフィードバックをする、というPDCAサイクルを習得します。 この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践的教育から構成される授業科目です。</p> <p>[到達目標] ①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度) ②地域連携に参画して、地域の問題点を挙げる事ができる。(知識) ③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度) ④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 初回(9月25日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)のガイダンス後は、事前に計画した事業参加申告書に基づき、普段は活動します。期末の活動報告会(1月8日を予定)で、全ての内容を報告し、討議します。</p> <p>[成績評価方法] 単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。 参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 活動報告会でのプレゼンテーションで、フロアとの間で質疑応答を行い、コメントをもらいます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 常日頃から周囲に目を向け、不都合な点はないか、どうすればもっと良くなるか、自分にできることは何かなど、観察し考える習慣を付けてください。 活動ごとの記録作成を習慣付けてください。 普段からの連絡、相談や報告を怠らないようにしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	地域連携インターンシップⅡ
担当者	前田 光子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ポーアイ4大学連携事業への参加 3. 市民救命士講習の受講 4. 市民救命士講習救急インストラクター活動 5. ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ ボランティア活動 6. 減災SCOP活動 7. DMAT研修運営補助ボランティアへの参加 8. 「禁煙キャンパス地区」を目指した禁煙支援活動への参加 9. 神戸マラソン等、地域ボランティアへの参加 10. 公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講 11. 阪神淡路大震災関連メモリアル行事への参加 12. その他、大学関連事業として認定する事業への参加 13. 学生からの提案事業(事前相談を要します) 14. 活動報告会 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。・ 参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%) で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	中国語 I		
担当者	沈 揚		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 授業中に中国のことを紹介しながら、それから中国語の発音を一通り学び、日常生活の中的话题で、中国語の文法や表現を学んでいき、練習問題や会話練習を繰り返しながら、中国語の基礎力養成します。</p> <p>[到達目標] ①中国語の発音と声調のマスターが出来るようになる。 ②日常生活中での挨拶言葉が話せるようになる。 ③自己紹介出来るようになる。 ④簡単な中国語の文章が理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業後、必ず復習し、新出単語と本文に目を通して、練習問題をしてください。 更に各回の講義についての予習・復習を行い、発音の練習に心掛け1時間程度してください。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(20%)、提出物(30%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題、小テストに対する解答、フィードバックは授業中に行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業中に恥ずかしがらず、大きな声で発音練習をしてください。言語学習は、姿勢ひとつで身に付き方が変わりますので、積極的な授業参加を心がけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	中国語 I
担当者	沈 揚
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 中国のことを紹介する 2. 教科書 発音編(声調と母音、挨拶ことば) 3. 教科書 発音編(子音、挨拶ことば) 4. 教科書 第一課(人称代名詞と名詞文) 5. 教科書 第二課(「動詞文) 6. 教科書 第一課、二課の復習、練習問題の確認 7. 教科書 第三課(形容詞文) 8. 教科書 第四課(場所を表す代名詞など) 9. 教科書 第三課、四課の復習問題とリスニング 10. 教科書 第五課(数詞の表し方) 11. 教科書 第六課(年月日、曜日、時刻の言い方) 12. 教科書 第五課、六課の復習問題とリスニング 13. 教科書 第七課(助動詞、前置詞など) 14. 教科書 第八課(経験を表し方など) 15. 教科書 第一～八課に関する理解度確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、提出物(30%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『中国語ポイント55』 著者名: 本間史・孟広学 出版社: 白水社 (978-4-560-06917-2 C3887)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>インターネット YouTubeの好きな中国映画・動画</p>	

授業科目名 (副題)	中国語Ⅱ		
担当者	沈 揚		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 「中国語Ⅰ」に引き続き、日常の身近な話題や生活習慣をテーマに、中国語の文法や表現を一つ一つ学んでいきます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現代中国語で使われている簡体字や文法についての知識を深め、中文を理解出来るようになる。 ②将来独学ができるように基礎力を付ける。 ③中国語検定4級程度の常用語彙を身に付けるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業後、復習をし、新出単語と本文に目を通しながら、朗読練習をしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間以上に)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(20%)、提出物(30%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題については、毎回授業で解答を行います。 小テストのフィードバックは次回の授業で行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業中に恥ずかしがらず、大きな声で発音練習をしてください。言語学習は、姿勢ひとつで身に付き方が変わりますので、積極的な授業参加を心がけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	中国語Ⅱ
担当者	沈 揚
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 教科書 第九課(進行の表し方、方位詞) 3. 教科書 第十課(主述語文、結果補語) 4. 教科書 第九課、十課の復習、練習問題を解く 5. 教科書 第十一課(様態補語、自然表現の表し方) 6. 教科書 第十二課(方向補語、動詞の重ね方) 7. 教科書 第十一課、十二課の復習、練習問題を解く 8. 教科書 第十三(疑問詞の不定用法、助動詞のまとめ) 9. 教科書 第十四課(可能補語、お金の言い方) 10. 教科書 第十三、十四課の復習、練習問題を解く 11. 教科書 第十五課(選択疑問文、使役文) 12. 教科書 第十六課(慣用語紹介) 14. 自己紹介文を書く、発表する 15. 教科書第九～十六課に関する理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、提出物(30%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『中国語ポイント55』 著者名: 本間史・孟広学 出版社: 白水社 (978-4-560-06917-2C3887)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>インターネット YouTubeの好きな中国映画・動画</p>	

授業科目名 (副題)	日本国憲法		
担当者	七野 敏光		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日本国憲法はわが国の法体系の頂点に位置する根本法であり、国政の基本を定めた法典です。少し平たく言えば、日本という国家がどのような政治を行うかを国民に宣言し、約束したものが日本国憲法です。そこで、約束の一方の当事者である国家には、約束内容に従って政治を行うことが要求されるとともに、約束の他方の当事者である国民一人ひとりにもまた、その約束内容を十分に承知し、約束内容が遵守されているか、どうかを不断に吟味することが要求されます。この授業では、日本国憲法の規定内容(例えば、国民主権や基本的人権など)をできるだけ分かりやすく解説し、民主主義国家の国民に相応しい知識を学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>憲法の原理を正しく理解し民主主義政治の主人公として振る舞えるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>インターネットなどを駆使して、ある程度リアルな社会情報を把握したうえで授業に参加してください。また、授業で学んだ話題を思い返しつつ日々の生活を送るように心がけてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テスト実施後、解答を提示し説明します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>憲法は小難しいという先入観を捨てて授業に参加してください。毎回の授業を楽しむことが一番の学習方法です。</p>			

授業科目名 (副題)	日本国憲法
担当者	七野 敏光
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 憲法の特質(根本法規) 3. 憲法の特質(権力を拘束する法) 4. 大日本帝国憲法 5. 日本国憲法 6. 基本的人権の概念 7. 自由権と生存権(成立の社会的背景) 8. 個人の尊重 9. 法の下での平等 10. 身体的自由 11. 思想・良心の自由 12. 信教の自由 13. 表現の自由 14. 生存権 15. 憲法のもつ意義の再確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『新時代の法学・憲法』 著者名: 山田勉・笹田哲男編 出版社: 建帛社 (ISBN 978-4-7679-4346-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『現代の法学』 著者名: 野口寛他 出版社: 建帛社 (978-4767943442)</p>	

授業科目名 (副題)	日本国憲法		
担当者	七野 敏光		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日本国憲法はわが国の法体系の頂点に位置する根本法であり、国政の基本を定めた法典です。少し平たく言えば、日本という国家がどのような政治を行うかを国民に宣言し、約束したものが日本国憲法です。そこで、約束の一方の当事者である国家には、約束内容に従って政治を行うことが要求されるとともに、約束の他方の当事者である国民一人ひとりにもまた、その約束内容を十分に承知し、約束内容が遵守されているか、どうかを不断に吟味することが要求されます。この授業では、日本国憲法の規定内容(例えば、国民主権や基本的人権など)をできるだけ分かりやすく解説し、民主主義国家の国民に相応しい知識を学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>憲法の原理を正しく理解し民主主義政治の主人公として振る舞えるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>インターネットなどを駆使して、ある程度リアルな社会情報を把握したうえで授業に参加してください。また、授業で学んだ話題を思い返しつつ日々の生活を送るように心がけてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テスト実施後、解答を提示し説明します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>憲法は小難しいという先入観を捨てて授業に参加してください。毎回の授業を楽しむことが一番の学習方法です。</p>			

授業科目名 (副題)	日本国憲法
担当者	七野 敏光
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 憲法の特質(根本法規) 3. 憲法の特質(権力を拘束する法) 4. 大日本帝国憲法 5. 日本国憲法 6. 基本的人権の概念 7. 自由権と生存権(成立の社会的背景) 8. 個人の尊重 9. 法の下での平等 10. 身体的自由 11. 思想・良心の自由 12. 信教の自由 13. 表現の自由 14. 生存権 15. 憲法のもつ意義の再確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『新時代の法学・憲法』 著者名: 山田勉・笹田哲男編 出版社: 建帛社 (ISBN 978-4-7679-4346-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『現代の法学』 著者名: 野口寛他 出版社: 建帛社 (978-4767943442)</p>	

授業科目名 (副題)	日本語入門 (生き生き日本語)	
担当者	長田 あかね	
実務経験のある教員による授業		
実務経験内容		
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他	ミニッツペーパーの提出と授業でのフィードバック	
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[授業全体の内容の概要] 私たちが日頃から使っている日本語とは、いったいどのような言語なのでしょう。ふだん何気なく話している言葉も、それが現在の形になるまでにさまざまな変遷を辿ってきました。日本の歴史、文化、風土が作り上げてきた日本の言葉は、いろいろな顔を持っています。この授業では、私たちが日常使用している日本語をもっと知るために、日本語に関するさまざまな事柄をテーマごとに学んでいきます。</p> <p>[到達目標] ①ふだん使っている日本語の基礎的な知識を身に付け、日本語の特徴を正しく理解できるようになる。 ②日本の文化や日本人の持つ感性が、日本語に与えた影響について理解し、その魅力を説明できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内で前回の授業内容に関する小テストを行うので、必ず復習しておいてください。また、授業内容に関する小レポートの課題を出しますので、参考文献を調べるなどして、授業時間外に仕上げてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 理解度確認テスト(50%)、小テストと 小レポート(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストと小レポートは、後日添削して返却します。返却にあわせて解説も行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 単位は授業の内容を理解してはじめて与えられるものです。授業をよく聞き、わからないことは積極的に質問してください。 関西ならではの言葉、若者に流行している言葉、聞き慣れない言葉など、身のまわりにあるいろいろな日本語に関心を持ってください。</p>		

授業科目名 (副題)	日本語入門 (生き生き日本語)
担当者	長田 あかね
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日本語の基礎知識 2.日本語の文字1—平仮名、片仮名 3.日本語の文字2—漢字 4.いろは歌と50音図 5.日本の言葉1—漢語 6.日本の言葉2—和語 7.日本の言葉3—外来語(カタカナ語) 8.日本語の音 9.日本語のオノマトペ 10.日本語の文体 11.日本語の敬語1—尊敬語 12.日本語の敬語2—謙譲語、丁寧語 13日本の方言 14.これからの日本語の可能性 15.日本語の特徴と文化的背景に関する復習と理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 日本語の特徴や文化的背景について、十分な知識と理解を得られているか、理解度確認テスト、小テストと小レポート、授業態度によって評価する。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし。プリントを配布。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『日本国語大辞典』(第2版)全13巻・別巻 著者名:日本国語大辞典第二版編集委員会、小学館国語辞典編集部 出版社:小学館 (409521001Xほか)</p> <p>『広辞苑』(第7版) 著者名:新村出 出版社:岩波書店</p> <p>『カタカナ・外来語/略語辞典』 著者名:堀内克明 出版社:自由国民社 (4426113024)</p> <p>『日本語オノマトペ辞典:擬音語・擬態語4500』 著者名:小野正弘 出版社:小学館 (9784095041742)</p>	

授業科目名 (副題)	日本の生活文化 (伝えたい食と生活のマナー)	
担当者	西川 貴子、細見 和子、大久保 郁子	
実務経験のある教員による授業		
実務経験内容		
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他		
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[授業全体の内容の概要] 四季の伝統行事、日本の食文化、日本料理や和菓子の文化、お箸の使い方など食生活マナー、きものの文化とTPO、慶事や弔事のマナーなど、日本人が昔から伝承してきた文化やマナーについて習得します。</p> <p>[到達目標] ①様々な日本の生活文化について学び、日本人が昔から伝え育んできた日本の心を見直して みることができる。 ②将来の日常生活に活かすことができるような日本の生活文化の知識を習得することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本の生活文化について興味を持ち、関係する資料を収集し、さらに知識を深めてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 提出物(20%)、小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物は、後日添削して返却します。 小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的な授業の参加を望みます。</p>		

授業科目名 (副題)	日本の生活文化 (伝えたい食と生活のマナー)
担当者	西川 貴子、細見 和子、大久保 郁子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の生活文化の概要と授業の目的(西川・細見・大久保) 2. 日本の食文化の変遷(大久保) 日本の食の生い立ちと食生活の変化 3. 日本料理の特徴(大久保) 日本の伝統料理について 4. 日本の伝統行事Ⅰ(大久保) お正月や節句など年中行事について 5. 日本の伝統行事Ⅱ(大久保) 七五三や還暦など人生のお祝いごとについて 6. 和菓子の文化(細見) 和菓子の世界をのぞいてみましょう 7. 箸の文化(細見) 箸の文化は日本だけ? 8. 食生活のマナー(細見) 食生活のマナーを身に付けましょう 9. 慶事の文化とマナー(西川) 結婚式の招待状の返事・ご祝儀袋の書き方、服装など 10. 弔事の文化とマナー(西川) 葬儀の意味、お悔やみのことば、焼香の仕方など 11. 日常生活の中のマナーと常識Ⅰ(西川) 挨拶やお辞儀、敬語の使い方など 12. 日常生活の中のマナーと常識Ⅱ(西川) 手紙やはがきの書き方など 13. きものの文化(細見) 日本独特の衣装の着物について 14. 外国から見た日本文化(細見) 外国から日本の文化を見てみましょう 15. 日本の生活文化やマナーについての理解度の確認(西川・細見・大久保) <p>順序は変更になることがあります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 提出物(20%)、理解度確認テスト(80%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 各担当者が適宜プリント等を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 各担当者から紹介します。</p>	

授業科目名 (副題)	日本の伝統文化 (茶の湯に見る日本の美)		
担当者	辻田 美和		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	茶室にて茶会体験に取り組みます		
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>茶の湯の世界には、茶碗などの陶芸作品、棗などの漆作品、きものなどの染織作品、茶杓や茶筌などの竹・木工作品、釜などの彫金作品、床の間に掛けられる書や絵画などの絵画作品、茶室などの建築作品、露地や庭などの環境空間作品、生け花やお香の美、懐石や和菓子の美というように、さまざまな日本の美がちりばめられています。</p> <p>またこれらを、季節や状況に応じて取り合わせる美的な感覚も含め、総合的な芸術の世界が展開されます。茶道としての点前や作法の知識を深めるだけではなく、さまざまな美術作品、美的空間、美的感覚と出会い、日本の美をみつめます。</p> <p>授業では視聴覚教材やワークシートを通して学び、茶室にて簡単な茶会ワークショップ体験をします。</p> <p>[到達目標]</p> <p>学ぶ、鑑賞する、体験するなど、さまざまな角度から「茶の湯」の世界を探求し、日本の美をみつめることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日常生活の中で、日本の美とは何かを観察し、茶の湯以外の日本の伝統文化にも関心を持って授業内容を復習してください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習に取り組んでください(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>各授業の提出物(ワークシート)(80%)、受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>全てのワークシートは返却し、振り返りを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>茶道具の鑑賞や茶会ワークショップなど積極的な取り組みを歓迎します。また、茶室利用のため、受講人数制限を30名までとします。茶室利用時には、各自白ソックスを持参してください。くわしくは授業にて説明します。</p>			

授業科目名 (副題)	日本の伝統文化 (茶の湯に見る日本の美)
担当者	辻田 美和
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日本の伝統的芸術文化 2.茶のたどった道 3.茶の湯のすがた 4.茶のすがたともてなしの心・「静聴松風」から 5.茶のすがたともてなしの心・茶の湯を楽しむ①薄茶 6.茶のすがたともてなしの心・茶の湯を楽しむ②濃茶 7.総合芸術としての茶の湯と現代の茶会 8.茶会体験ワークショップ① 9.美しい着物①身にまとってきたもの 10.美しい着物②茶の湯と着物 11.懐石と菓子①懐石 12.懐石と菓子②菓子 13.茶会の準備 14.茶会体験ワークショップ② 15.生活の中の「日本の美」 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法：ワークシートの内容にて評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『茶の湯 ところと美』 著者名：表千家監修 不審庵文庫編 出版社：河原書店 (978-4-7611-0167-1)</p>	

授業科目名 (副題)	日本文学 (古典の世界を楽しむ—恋愛に見る女性の生き方)	
担当者	長田 あかね	
実務経験のある教員による授業		
実務経験内容		
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他	ミニッツペーパーの提出と授業でのフィードバック	
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日本の古典文学には、さまざまな恋愛模様が描かれています。そこに描かれるいろいろな愛の形は、現代を生きる私たちにも通じるものばかりです。そうした古典作品のうち、中古・中世・近世の各時代を代表する作品を、原文と現代語訳を織り交ぜながら読んでいきます。作品の理解を深めるため、DVDや絵画資料などを使ってなるべくビジュアルに授業を展開します。合わせて、日本の古典文学の歴史と伝統についての基礎的な知識も学んでいきます。文学鑑賞に力点を置くので、古文が苦手な学生でも十分に理解できる授業です。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①授業で取り上げた古典文学作品の魅力を知り、深く理解・鑑賞できるようになる。 ②日本の古典文学史に関する基礎的な知識を身に付け、概要を説明できるようになる。 ③日本の古典文学作品が後世へ与えた文化的影響について見聞を広め、その価値を理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内で前回の授業内容に関する小テストを行うので、必ず復習しておいてください。また、授業内容に関する小レポートの課題を出しますので、図書館で参考図書を調べるなどして、授業時間外に仕上げてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テストと 小レポート(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テストと小レポートは、後日添削して返却します。返却にあわせて解説も行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>単位は授業の内容を理解してはじめて与えられるものです。授業をよく聞き、わからないことは積極的に質問してください。 ふだんから日本の古典文学に関係する事柄に敏感になってください。少し注意すると、身のまわりにたくさん存在することに気づきます。</p>		

授業科目名 (副題)	日本文学	(古典の世界を楽しむ—恋愛に見る女性の生き方)
担当者	長田 あかね	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中古文学史の流れを知る 2. 『源氏物語』と紫式部について知る 3. 『源氏物語』第9帖「葵」の読解 I (車争いと六条御息所) 4. 『源氏物語』第9帖「葵」の読解 II (物の怪と葵の上) 5. 『源氏物語』第10帖「賢木」の読解 6. 『源氏物語』の文化的影響について知る 7. 中世文学史の流れを知る 8. 能・狂言について知る 9. 能「葵上」の読解と鑑賞 I (怨霊の登場と嫉妬) 10. 能「葵上」の読解と鑑賞 II (怨霊の調伏) 11. 近世文学史の流れを知る 12. 『雨月物語』と上田秋成について知る 13. 『雨月物語』巻2「浅茅が宿」の読解 I (夫婦の別れと約束) 14. 『雨月物語』巻2「浅茅が宿」の読解 II (夫婦の再会と結末) 15. 日本古典文学の歴史と文化的影響に関する復習と理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 日本古典文学の歴史と文化的影響について十分な知識と理解を得られているか、理解度確認テスト、小テストと小レポート、授業態度によって評価する。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし。プリントを配布。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『日本古典文学大辞典』全6巻 著者名: 日本古典文学大辞典編集委員会 出版社: 岩波書店 (4096580244ほか)</p> <p>『源氏物語』全6巻(『新編日本古典文学全集』20-25) 著者名: 阿部秋生ほか 出版社: 小学館 (4096580201ほか)</p> <p>『謡曲集』全2巻(『新編日本古典文学全集』58-59) 著者名: 小山弘志ほか 出版社: 小学館 (4096580589ほか)</p> <p>『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』(『新編日本古典文学全集』78) 著者名: 中村幸彦ほか 出版社: 小学館 (4096580783)</p>		

授業科目名 (副題)	人間関係づくりワークショップ		
担当者	浜中 恵美子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	NTLA(National Training Laboratory Association)の考えを主にワークショップのファシリテーターやカウンセラーとして、大学、企業、外資系企業、病院、官公庁など、20年以上の実務経験を持つ教員。グループのファシリテート、ヒューマンリレーションについてより実務的な視点から解説します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業は、一方的に話を聞いたり、テキストや教材を読むだけではなく、4大学という異なった文化的背景を持つ受講生が、小グループで様々なアクティビティに取り組み、受講生同士が感じた事をリアルに交流し合うという双方向型の「体験」を通じた学びを重視します。</p> <p>ワークショップ形式の授業を通じ、グループ内の刻々と変化する人間関係の中で他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深め、自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることを学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①コミュニケーションの理論やスキルを習得することができます。</p> <p>②他者の気持ちを「受容」「共感」することを味わい、自分自身や他者への気づきを深めることができます。</p> <p>③感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話することを学び、自己成長することができます。</p> <p>④プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得します。</p> <p>⑤これまで一過性の個人的体験であった自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新たな行動様式を身につけることができます。</p> <p>⑥これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになることを目標とします。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日常においても、授業内容やソーシャルスキルを意識し行動化することを心がけてください。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40% ・課題、発表他30%)</p> <p>2.課題レポート30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業開始時もしくは終了時にフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中講義(2021年9月13日(月)、14(火)、15日(水)、16(木))。 ・プログラム上、全日程参加可能な方。 ・状況により授業内容、時間を変更することがあります。 			

授業科目名 (副題)	人間関係づくりワークショップ
担当者	浜中 恵美子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ・ワークショップとは・体験学習の理論・授業の考え方 2. 「対話」とコミュニケーション ・『他者』と関わる、『経験』することの意味 3. 自分に見えない自分の姿に気づく 4. 出会いの試み ・自己理解や他者理解を深める 5. より良い人間関係を築くために 6. コミュニケーションの弊害 ・「聴く力」「話す力(伝える)」「観る力」について 7. 「Who am I?」「私」とは 8. 心の枠組みを点検する ・厄介な人間関係のからくり・感情のコントロールとは 9. オールタナティブな問題解決法 10. 相手を理解し自分の考えを伝える 11. 『私』を表現する 12. 協力ゲーム ・集団意思決定の方法を知り、コミュニケーション特性に気づく 13. 「考える」ということ、私をデザインする 14. 『自分を語る』 15. 作品のフィードバック ・全体の分かち合い <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40% ・課題、発表他30%) ・ 2.課題レポート30%</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	フランス語 I		
担当者	松田 真里		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>シャネルやディオールはフランス人？ マカロンやカヌレはフランス菓子？「フランス人は10着しか服を持たない」って本当？ フランス料理のお食事の仕方は？ フランスでのお買い物の仕方は？ 豊富な映像コンテンツを用意し、皆さんの関心に合わせ、フランスへの興味を拡げ深めながら勉強します。皆さんの学生生活が、フランス語の勉強を通して楽しく豊かなものになること間違いありません。</p> <p>まずはABC(アー・ベー・セー)の発音からはじめ、フランス語の美しい響きに慣れていきましょう。一年間で、フランスを旅行する際に困らないレベルを目指します。フランス語の仕組みを理解しながら、無理なくきちんとフランス語を学びたい人にもお薦めの授業です。さらに勉強したい人に個別に対応することもできます。フランス語の発音と文法の基礎を学ぶとともに、フランスの文化にも触れます。</p> <p>フランス語習得の第一歩である発音は慣れが必要なので、毎回少しずつ規則を覚えながら繰り返し読むことにより、無理なく定着させていきます。文法としては、名詞や形容詞の扱い方、動詞の活用などを学び、フランス語の基本的な仕組みをしっかりと理解していきます。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようになります。基礎を身に付けることが目的なので授業はゆっくり進めますが、みなさんの理解度に応じて応用にも挑戦できるようにします。</p> <p>言葉の背景にある文化を知ってもらうため、フランスの食べ物やファッション、映画、本などを紹介し、フランスでの生活についても折に触れて話していきたいと思えます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①正しく発音できるようになる。 ②文の仕組みを理解できるようになる。 ③挨拶や自己紹介を言えるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>受講態度(30%)、小テスト(30%)、確認テスト(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>口頭の小テストはその場で結果を伝え、正解するまで何度も挑戦できるようにします。記述の課題は結果とともにヒントを書き込んで返却し、それをもとに質問を受け付けます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>語学の上達には、授業への積極的な参加と日々の積み重ねが大切です。楽しく有意義な時間となるよう授業に集中し、学んだことをひとつずつ定着させていってください。</p>			

授業科目名 (副題)	フランス語 I
担当者	松田 真里
<p>〔授業計画〕 【遠隔授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルファベット、あいさつ、自己紹介／フランスの基礎知識(1)国土、地名 2. 主語人称代名詞(私は、君は、彼は…)／発音の基本／フランスの基礎知識(2)文化、社会 3. 動詞?tre(～です)／国籍や職業の言い方 4. 名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞／「ここに～があります」「これは～です」 5. 形容詞の性と数、形容詞と名詞の組み合わせ 6. 動詞avoir(～を持っている)／家族の言い方 7. 第一群規則動詞:-er動詞／「話す」、「住む」、「好き」… 8. 否定文の作り方、指示形容詞(この、その…) 9. 疑問文の作り方、応答の仕方 10. 動詞aller(行く)とvenir(来る) 11. 前置詞と定冠詞の縮約、命令文 12. 所有形容詞(私の、君の、彼の…) 13. 強勢形人称代名詞、疑問形容詞(どの～)、数詞／年齢や好きなものの聞き方、答え方 14. いろいろな動詞を使った文を読む、書く 15. 学習した文法項目「名詞、形容詞、冠詞、動詞、所有形容詞、指示形容詞、疑問形容詞、強勢形人称代名詞、前置詞、否定文、疑問文、命令文」の復習と理解度の確認 <p>〔この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)〕 【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:授業態度(30%)、小テスト(30%)、確認テスト(40%)で評価します。</p> <p>〔テキスト(ISBN)〕 『なびふらんせ1/パリをめぐる』 著者名:有富智世著 出版社:朝日出版社 (978-4-255-35261-9)</p> <p>〔参考文献(ISBN)〕 なし</p>	

授業科目名 (副題)	フランス語Ⅱ		
担当者	松田 真里		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>シャネルやディオールはフランス人？ マカロンやカヌレはフランス菓子？「フランス人は10着しか服を持たない」って本当？ フランス料理のお食事の仕方は？フランスでのお買い物の仕方は？ 豊富な映像コンテンツを用意し、皆さんの関心に合わせ、フランスへの興味を拓げ深めながら勉強します。皆さんの学生生活が、フランス語の勉強を通して楽しく豊かなものになること間違いありません。</p> <p>後期は、前期に勉強した基礎文法の続きと、フランスについての知識をさらに身に付けます。一年間で、フランスを旅行する際に困らないレベルを目指します。フランス語の仕組みを理解しながら、楽しく、無理なくきちんとフランス語を学びたい人にもお薦めの授業です。さらに勉強したい人に個別に対応することもできます。</p> <p>発音については、繰り返し読む練習をして無理なく定着させていきます。文法としては、いろいろな動詞の活用に加え、目的語人称代名詞などを学び、初等文法を完成させます。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようにします。基礎を身に付けることが目的なので授業はゆっくり進めますが、みなさんの理解度に応じて応用にも挑戦できるようにします。</p> <p>言葉の背景にある文化を知ってもらうため、フランスの食べ物やファッション、映画、本などを紹介し、フランスでの生活についても折に触れて話していきたいと思います。</p> <p>[到達目標]</p> <p>よく使われる文や表現が理解でき、現地での買い物など簡単なやり取りができるレベルを目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>受講態度(30%)、小テスト(30%)、確認テスト(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>試験後、答え合わせと解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>語学の上達には、授業への積極的な参加と日々の積み重ねが大切です。楽しく有意義な時間となるよう授業に集中し、学んだことをひとつずつ定着させていってください。</p>			

授業科目名 (副題)	フランス語Ⅱ
担当者	松田 真里
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語Iの復習(1)名詞、形容詞 2. フランス語Iの復習(2)動詞 3. 部分冠詞、第2群規則動詞: -ir動詞 4. 動詞vouloir(～したい)とpouvoir(～できる) 5. 非人称構文/時刻の聞き方、答え方 6. 直接目的語人称代名詞(私を、君を、彼を…) 7. 間接目的語人称代名詞(私に、君に、彼に…) 8. 代名動詞 9. いろいろな動詞の活用 10. 近接未来(～しようとしている)、近接過去(～したばかりだ)/注文の仕方 11. 中性代名詞 12. 比較級、最上級 13. 時制/会話の練習 14. 読解の練習 15. 学習した文法事項「いろいろな動詞の活用、目的語人称代名詞、中性代名詞、近接未来・過去、比較・最上級」の復習と理解度の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(30%)、小テスト(30%)、確認テスト(40%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『なびふらんせ1 パリをめぐる』 著者名: 有富智世著 出版社: 朝日出版社 (978-4-255-35261-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	防災・防犯指導論実習		(身近な犯罪・火災と自然災害から 自分自身を守る)
担当者	松下 眞		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	阪神・淡路大震災の災害対策実務を踏まえて市民に理解してほしいリスクを伝える。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他	ZOOMによりオンラインに対応		
<p>[授業全体の内容の概要] 防災・防犯に関わる専門家による講話と実習、及び自然災害の事象を様々な切り口からメディアが編集・映像化した記録等を教材として、見て・知り・考えることにより疑似体験的に防災・防犯を学びます。阪神・淡路大震災などの対応経験を有する教員が、さまざまな災害の特徴を踏まえて対処法を指導します。</p> <p>[到達目標] 身近な犯罪被害からの防止対策の習得、自然災害の原因や結果を自分で考える基礎知識を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 災害・犯罪等に関連するニュースや社会事象への注意と関心を払い、履修授業の復習と疑問点の探求をおこないます。</p> <p>[成績評価方法] 授業中に作成するレポート(100%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート内容へのコメント、作成上の留意点などを次回の冒頭で解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 日頃から災害・犯罪等に関連するニュースや社会事象への注意と関心を払い、履修内容と合わせて自分自身を守る行動を実践してほしい。</p>			

授業科目名 (副題)	防災・防犯指導論実習	(身近な犯罪・火災と自然災害から 自分自身を守る)
担当者	松下 眞	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災・防犯指導論実習 概論(松下) 2. 地域の防災・防犯活動(松下・学外特別講師) 3. 警察の役割と防犯対策(松下・学外特別講師) 4. 消防署の役割と火災防止(松下・学外特別講師) 5. 巨大地震(松下) 6. 巨大津波(松下) 7. 地震と火山(松下) 8. 感染症1(歴史を変えた感染症)(松下) 9. 感染症2(新型コロナウイルスへの対応)(松下) 10. 長周期地震動(松下) 11. 住宅耐震(松下・学外特別講師) 12. 最近の豪雨災害と線状降水帯(松下) 13. 深層崩壊による土砂災害(松下) 14. 局地豪雨と堤防決壊(松下) 15. 複合災害(松下) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業中に作成するレポート(100%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] レジメ・資料を作成し配布する。</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>		

授業科目名 (副題)	防災・防犯入門		
担当者	船木 伸江		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 21世紀の課題の1つは安全で安心な社会の構築にあります。阪神・淡路大震災や東日本大震災で学んだ教訓は、日常的な取り組みと助け合いの精神の大切さです。この教訓は安全で安心な暮らしを守る防災と防犯対策にとっても重要なキーワードです。自分と愛する人を守るためには何が必要なのかについて、自分のこととして考えます。市民救命士の資格の取得や生活安全確保のための防犯対策など、各界の人々のお話を含めた授業展開をしてきます。</p> <p>[到達目標] 防犯や防災についての見識を備え、いざという時に行動できる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 新聞等をよく読むなど最低2時間以上予習復習する。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度・授業への積極的貢献度(40%)、レポート(60%、提出3回)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 講義の感想やレポートについては最終授業でフィードバックを行い、より深い思考につなげる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 特になし</p>			

授業科目名 (副題)	防災・防犯入門
担当者	船木 伸江
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 15回の講義の進め方、成績評価の仕方などを説明する 2. 防災入門① 1995年に神戸で発生した阪神・淡路大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ 3. 防災入門② 2011年に東北で発生した東日本大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ 4. 防災入門③ 災害に備えるためには日ごろからどのようなことをしておけばいいのか、備えのあり方について学ぶ 5. 防災ワークショップ 防災教育教材を用いて災害の被害を追体験しながら、防災についてワークショップ形式で学ぶ 6. 神戸地方気象台 気象と災害 (学外特別講師) 7. 市民救命士講習Ⅰ 家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていた際の応急手当の知識を学びます。正式な神戸市の市民救命士講習です。 8. 市民救命士講習Ⅱ 実際に倒れた人を救うために、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取扱方法などの的確な応急処置法を学びます(この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます)。(学外特別講師) 9. 兵庫県神戸水上警察署 身近に迫る犯罪の防止 (学外特別講師) 10. 兵庫県警本部 被害者支援の現状、取り組み (学外特別講師) 11. 兵庫県神戸水上警察署 交通安全教育の参画 (学外特別講師) 12. 消費者教育 消費者犯罪について (学外特別講師) 13. 災害と被災者① 災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ 14. 災害と被災者② 災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ(阪神・淡路大震災の直接経験者から話を聞きます)(学外特別講師) 15. 防災・防犯知識の活用 これまでの講義で学んだ防災・防犯の事例を生活に活かす方法を学ぶ <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度・授業への積極的貢献度(40%)、レポート(60%、提出3回)</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 随時紹介する。</p>	

授業科目名 (副題)	防災・防犯ワークショップ		
担当者	室崎 友輔		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	NPOおよび企業で、社会教育・防災普及啓発業務および防災コンサルティング業務の実務経験のある教員が、講演・ワークショップの豊富な実務経験を活かし、より実践的で分かりやすい解説と、学修者が主体となって関わり学べる指導をおこないます。また、防災・防犯にかかわっている指導者や専門家の講話も取り入れ、幅広い授業展開をおこないます。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 生活を支える安全・安心は平素の備えが重要です。多発する災害事象は複雑多様化し顕在化しています。また、犯罪など身近な社会生活の安全をおびやかすリスクも凶悪化し多様化しています。この授業では現代社会に求められている安全・安心についての視野を広げ、防災・防犯のリーダーとなり得る人材の育成を目指します。</p> <p>[到達目標] 防災・防犯について自分の言葉で説明することができる。(知識) 日頃から防災・防犯に関するニュース等に関心を持つ。(態度・習慣) 防災・防犯における危機管理能力を身につける。(技能)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から防災・防犯に係るニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[成績評価方法] 授業貢献度(30%)と、毎回の授業テーマ関連課題の小レポートによる授業理解度(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小レポート回収後、授業内で解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ワークショップでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望んでください。</p>			

授業科目名 (副題)	防災・防犯ワークショップ
担当者	室崎 友輔
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、防災ゲーム体験 2. 護身術(実技)(学部特別講師:警察) 3. 交通安全講話(学部特別講師:警察) 4. 携帯被害・サイバー被害対策(学部特別講師:警察) 5. 生活安全講話(学部特別講師:警察) 6. 気象と災害(学部特別講師:気象台) 7. ワークショップ(土砂災害・風水害Ⅰ)—気象庁ワークショップ 8. ワークショップ(土砂災害・風水害Ⅱ)—EVAG 9. 地震と津波 10. ワークショップ(防災Ⅰ)—クロスロード 11. ワークショップ(防災Ⅱ)—さすけなぶる 12. 災害への備え 13. ワークショップ(防災Ⅲ)—ダイレクトロード 14. 防災・防犯の啓発、防災プログラム体験 15. まとめと発表 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業貢献度(30%)と、毎回の授業テーマ関連課題の小レポートによる授業理解度(70%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ボランティア活動は、見返りを求めず、自ら進んで社会と関わり、社会の発展や他者の助けを行う活動です。大学とは異なる様々な場で活動することによって、様々な人やことと関わり、コミュニケーションや、組織、そして、様々な活動の仕方を実践的に学びます。本授業は、45時間のボランティア活動と5時間の授業を加えた通年授業で、ボランティアのあり方について深く学びます。対象となるボランティア活動は、学校から紹介されるもの、クラブ活動の中で行われるもの、地域連携推進委員会が募集するもの、居住地域での活動等のいずれでもいいですが、授業担当者の認定したものに限り、自分が関わってみたいボランティア活動を通して、これからの社会を支える協働のあり方を具体的に学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>ボランティア活動への責任感と、社会での実践的なコミュニケーション力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>ボランティア活動の前には、自分が参加する行事やイベントの内容などの確認だけでなく、それらの活動の目的、意味、そして主催者、参加者等も確認し、その活動を総合的に把握する習慣を身につけましょう。活動後には、自らの行動を振り返り、報告書を提出してください。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>各活動での事前準備、報告書(10%)、ボランティア活動時間45時間分(70%)、5コマ分の授業で指示される提出物やレポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出されたレポートは、添削をして返します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>他者とのさまざまな関係は、多くの深い思考をもたらします。いろいろなボランティア活動に積極的に参加し、助ける、助けられるといった単純な図式にとらわれず、どんな場面からも学べる力を身に付けてください。相手の立場に立ってものを考えられる力を身に付けることは一生の財産です。</p>			

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)
担当者	古田 貴美子
<p>[授業計画] (学内授業)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ボランティア活動の理念、ボランティア活動関係機関について 2. ボランティアの募集について、コミュニケーション及び活動時のマナー報告の仕方について 3. ボランティア活動の中間報告 夏休み中のボランティアについての諸注意 4. ボランティア活動の振り返り、ボランティア活動の事後ディスカッション、レポートの作成 5. ボランティア活動の報告会 <p>その他、個別にボランティア活動時間の確認、報告などの指導</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: ボランティア活動、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『いちばんはじめのボランティア』 著者名:小野常明他編著 出版社:樹村房 (88367-109-7)</p>	

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)		
担当者	上野 和廣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1年間の通年授業です。1年間で45時間のボランティア活動を実施することで、1単位を取得できます。対象となるボランティア活動は、学校から紹介されるもの、クラブ活動の中で行われるもの、地域連携推進委員会が募集するもの、居住地域での活動等のいずれでもよろしいですが、授業担当者の認定したものに限りま。そうした様々なボランティア活動を行うことで、その意義と価値について学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①ボランティア活動に必要とされる責任感を身に付けることができる。 ②社会で必要とされるコミュニケーション力を実践的に身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>ボランティア活動の前には、十分に準備をしてください。自分が手伝う行事やイベントの主催者、目的や参加者等を調べて当日の自分の役割を知り、心構えをしてください。活動後には、自らの行動を振り返り、報告書を提出してください。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>各活動での事前準備、報告書(30%)、ボランティア活動時間45時間分(60%)、5コマ分の授業で指示される提出物やレポート(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>ボランティアに行くごとに提出された報告書は、「ボランティアの実践まとめ」と共に、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>他者のためより自分の勉強のためということを忘れず、謙虚さを失わずに取り組む姿勢が大切です。</p>			

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)
担当者	上野 和廣
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション(ボランティア活動の理念) 2.今後のボランティア活動について 5月の活動の募集、事前指導 3. 6月のボランティア活動の募集、事前指導 4. 7月のボランティア活動の募集、事前指導、及び5月の活動の事後指導 5. 8月、9月のボランティア活動の募集、事前指導、及び6月の活動の事後指導 6. 後期のボランティア活動について 募集と事前指導、及び7月8月の活動の事後指導 7. 11月のボランティア活動の募集、事前指導、及び10月の活動の事後指導 8. 12月のボランティア活動の募集、事前指導、及び11月の活動の事後指導 9. 1月以降のボランティア活動の募集、事前指導、及び12月の活動の事後指導 10. ボランティア活動の振り返り、レポートの作成 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法:各ボランティア活動ごとに提出された報告書と最後に提出された「ボランティアの実践のまとめ」によって評価する。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特になし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『いちばんはじめのボランティア』 著者名:小野常明他編著 出版社:樹村房 (88367-109-7)</p>	

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)		
担当者	塚田 みちる		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[授業全体の内容の概要] 対象となるボランティア活動は、学校から紹介されるもの、クラブ活動の中で行われるもの、地域連携推進委員会が募集するもの、居住地域での活動等のいずれでもよろしいですが、授業担当者の認定したものに限ります。</p> <p>[到達目標] ボランティア活動への責任感と、社会での実践的なコミュニケーション力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ボランティア活動の前には、十分に準備をしてください。自分が手伝う行事やイベントの主催者、目的や参加者等を調べて当日の自分の役割を知り、心構えをしてください。活動後には、自らの行動を振り返り、報告書を提出してください。</p> <p>[成績評価方法] 各活動での事前準備、ボランティア活動報告書(10%)、ボランティア活動時間45時間分(60%)、5コマ分の授業で指示される提出物やレポート(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ボランティアに参加する都度に「参加報告書」の作成をして、ボランティア時間を記入しておく。それらの時間の合計が45時間になるまで「報告書」を積み上げます。 「保育室開放」の企画書の提出と実施報告をします。 最終課題は、短大生活におけるボランティアへの取り組みのまとめを提出します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 1年間の通年授業です。1年間で45時間のボランティア活動を実施することにより、1単位を取得できます。他者のためより自分の勉強のためということを忘れず、謙虚さを失わずにボランティア活動に取り組む姿勢で望んでください。</p>			

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)
担当者	塚田 みちる
<p>[授業計画] (学内授業)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、ボランティア活動の理念、ボランティア活動関係機関について 2.ボランティアの募集について、コミュニケーションおよび活動時のマナー、報告の仕方について 3.ボランティア活動の中間報告、夏休み中のボランティアについての諸注意 4.ボランティア活動の振り返り、ボランティア活動の事後ディスカッション、レポートの作成 5 ボランティア活動の報告会 <p>その他、個別にボランティア活動時間の確認、報告などの指導</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法:各活動での事前準備、報告書(10%)、ボランティア活動時間45時間分(60%)</p> <p>【3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:5コマ分の授業で指示される提出物やレポート(30%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特になし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『いちばんはじめのボランティア』 著者名:小野常明他編著 出版社:樹村房 (88367-109-7)</p>	